



下水道モニター

令和4年度 第2回アンケート結果

下水道モニターアンケート第2回では、浸水防止対策や「東京アメッシュ」についてアンケートしました。

- ◆ 実施期間 令和4年7月12日(火)~7月26日(火)の14日間
- ◆ 対象者 東京都下水道局「令和4年度下水道モニター」
※東京都在住18歳以上の男女個人
- ◆ 回答者数 671名
- ◆ 調査方法 ウェブ形式による自記式アンケート
- ◆ 内容

I	結果の概要.....	1
1	東京都下水道局が行っている浸水対策の取組.....	1
2	家庭での浸水対策の取組.....	2
3	「東京アメッシュ」に関する設問.....	4
4	局へのご意見・ご要望.....	6
II	回答者の属性.....	7
1	回答者数（性別、年代、地域、職業）.....	7
2	回答者属性別グラフ.....	8
III	集計結果.....	9
1	東京都下水道局が行っている浸水対策の取組.....	9
2	家庭での浸水対策の取組.....	27
3	「東京アメッシュ」に関する設問.....	37
4	局へのご意見・ご要望.....	43

構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100とはならない場合があります。

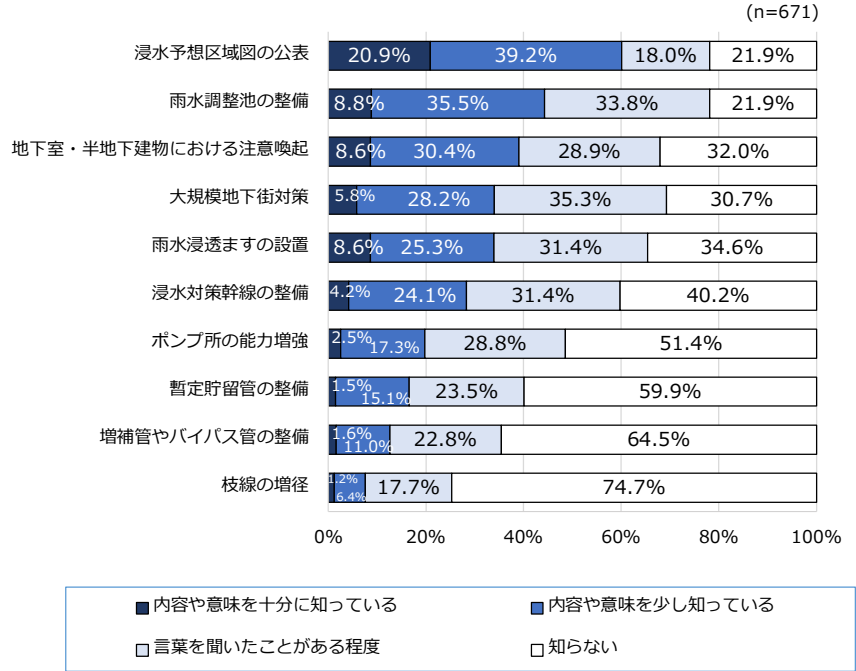
I 結果の概要

1 東京都下水道局が行っている浸水対策の取組

(1) 浸水対策の取組の内容 や意味の認知度

局の浸水対策の各種取組への認知度は「浸水予想区域図の公表」が最も高く、次いで「雨水調整池の整備」が続いた。

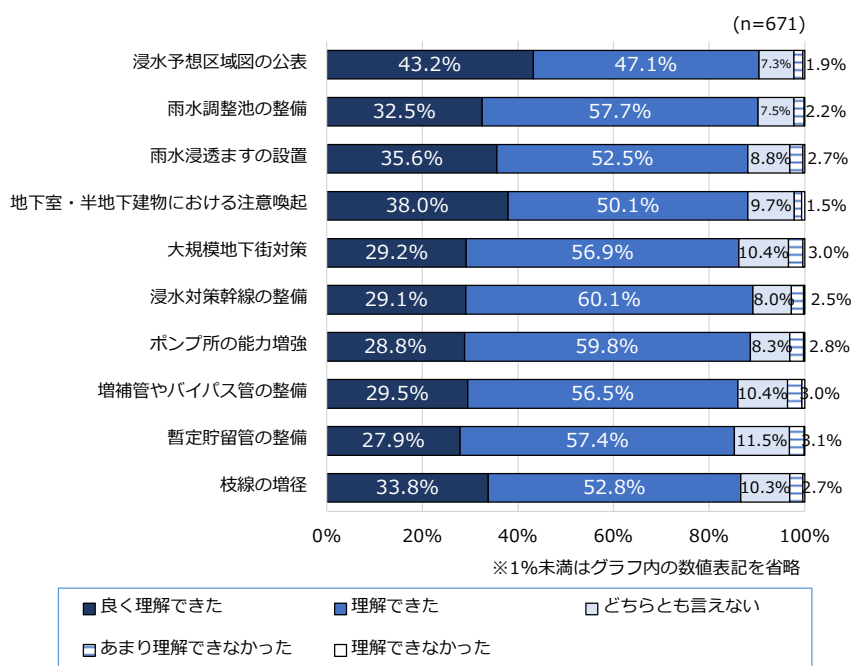
Q1 局が行っている浸水対策の取組の認知度 (単一回答)



(2) 浸水対策の取組への理解

浸水対策のイメージと具体策提示したのち、各取組への理解を尋ねたところ、いずれの取組も約9割が「理解できた」と回答した。

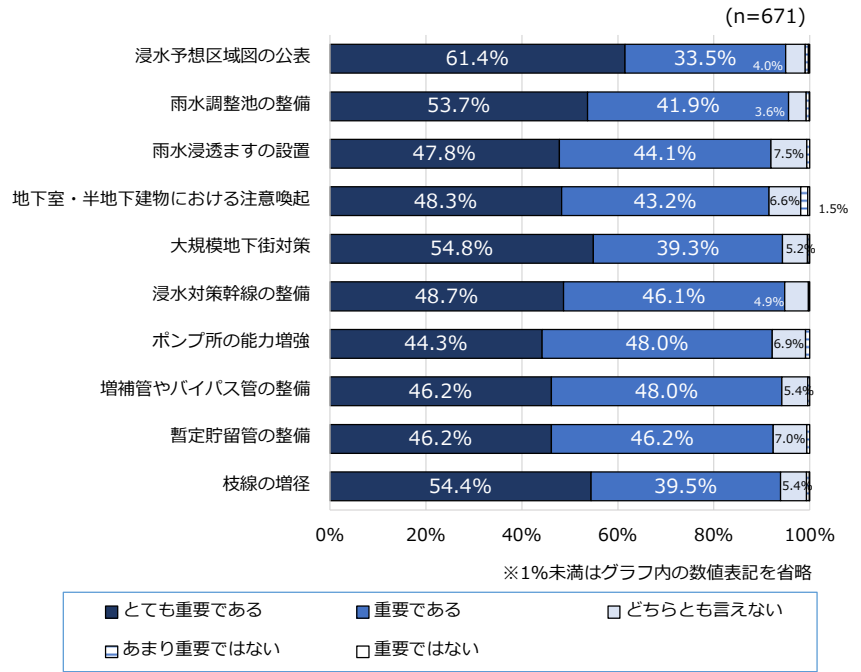
Q2 局の浸水対策の取組への理解度 (単一回答)



(3) 浸水対策の取組の重要度

各取組をどのくらい重要と考えるかについては、いずれの取組も9割以上が「重要」と回答した。

Q3 局の浸水対策の取組の重要度 (単一回答)

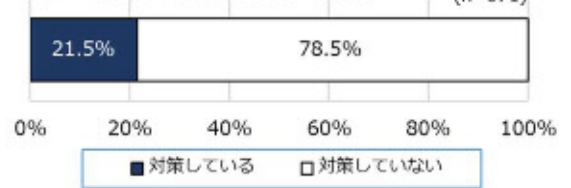


2 家庭での浸水対策の取組

(1) 家庭での浸水対策実施の有無

家庭で浸水対策を実施しているのは、回答者の約2割だった。

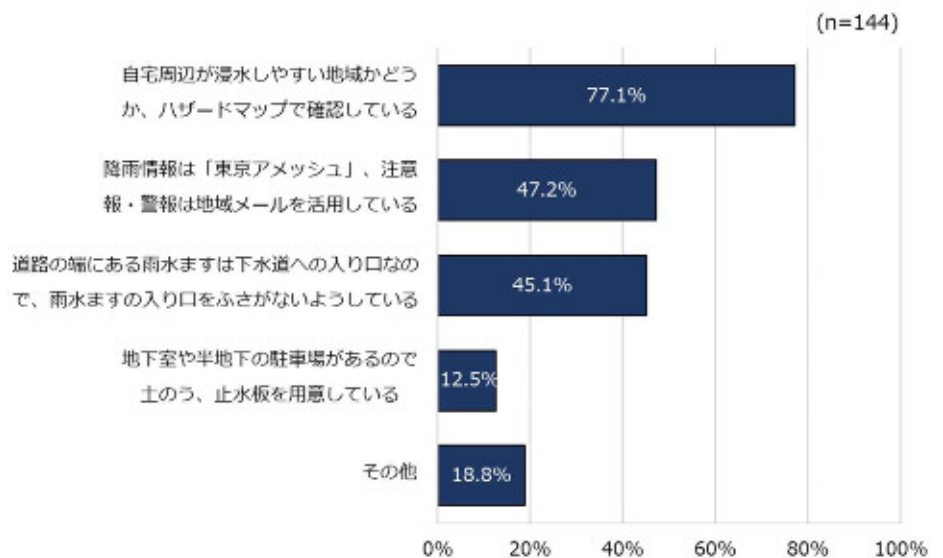
Q4 家庭での浸水対策 (単一回答)



(2) 行っている浸水対策

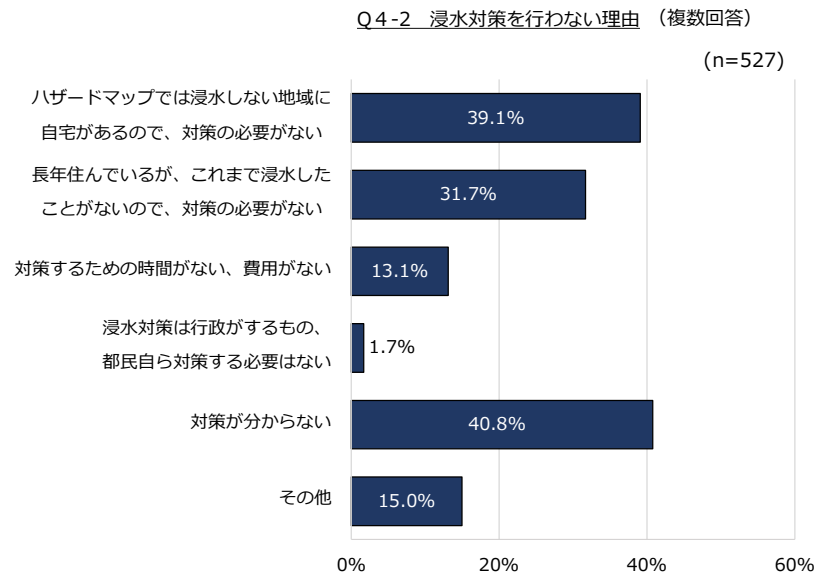
2 (1) (Q4) で「対策している」と回答した144人が行っている浸水対策は、「ハザードマップで確認している」が最も多く、次いで「東京アメッシュ」や地域メールを活用している」「雨水ますの入り口をふさがないようにしている」の順だった。

Q4-1 行っている浸水対策 (複数回答)



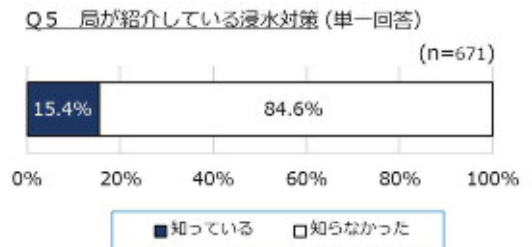
(3) 浸水対策を行わない理由

2 (1) (Q4) で「対策していない」と回答した 527 人の理由は、「ハザードマップでは浸水しない地域に自宅がある」、「長年住んでいるが、これまで浸水したことがないので、対策の必要がない」が多かった。



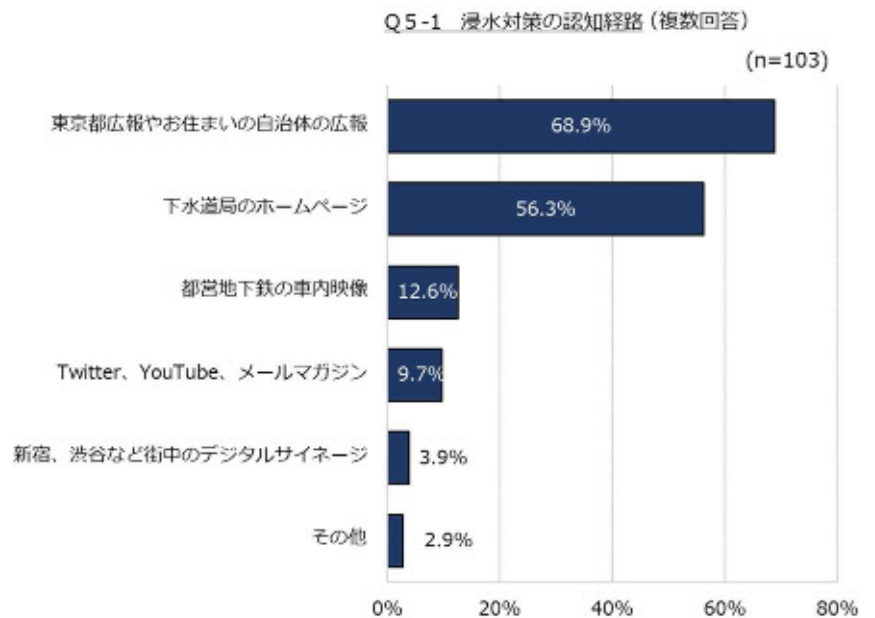
(4) 下水道局が紹介する浸水対策の認知度

下水道局が紹介している浸水対策を知っていたのは回答者の約 15% だった。



(5) 浸水対策の認知経路

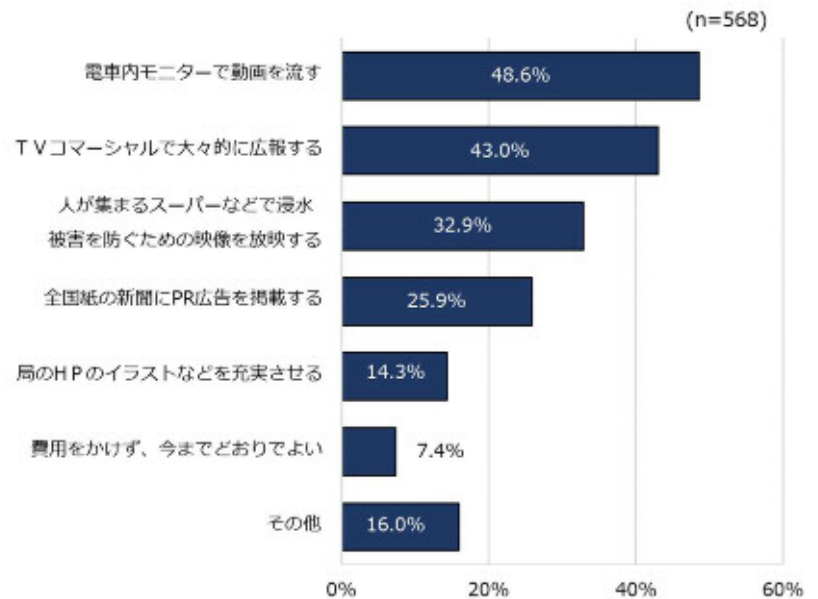
2 (4) (Q5) で局が紹介する浸水対策を「知っている」と回答した 103 人の認知経路は、自治体の広報が約 7 割、局ホームページが 6 割弱だった。



(6) 浸水対策のPR方法

2(4)(Q5)で局が紹介する浸水対策を「知らない」と回答した568人が考える自ら対策をしてもらうためのPR方法は「電車内モニターで動画を流す」や「TVコマーシャルで広報する」などだった。

Q5-2 自ら対策をしてもらうためのPR方法 (複数回答)

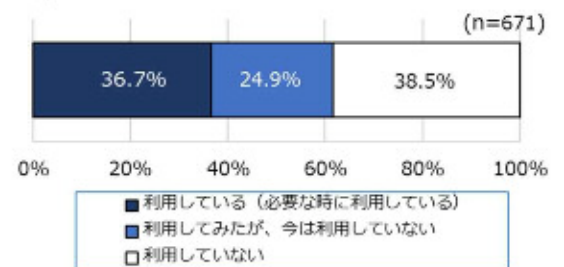


3 「東京アメッシュ」に関する設問

(1) 「東京アメッシュ」の利用

「東京アメッシュ」の利用経験者は第1回アンケート(「東京アメッシュ」を知っている(利用している・利用したことがある))の37.5%から、61.6%に増加した。

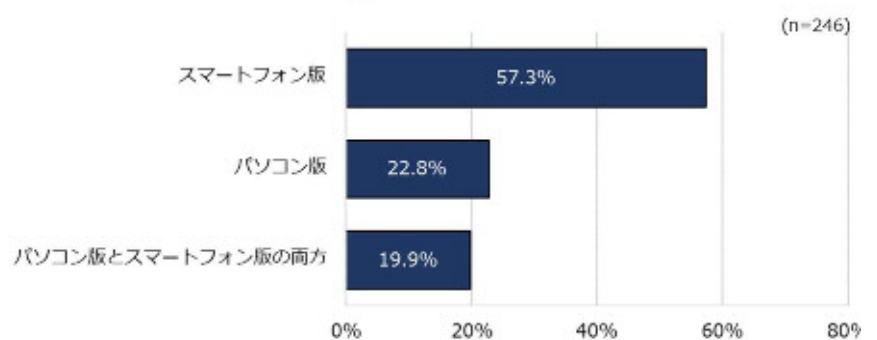
Q6 「東京アメッシュ」の利用 (単一回答)



(2) 「東京アメッシュ」の利用タイプ

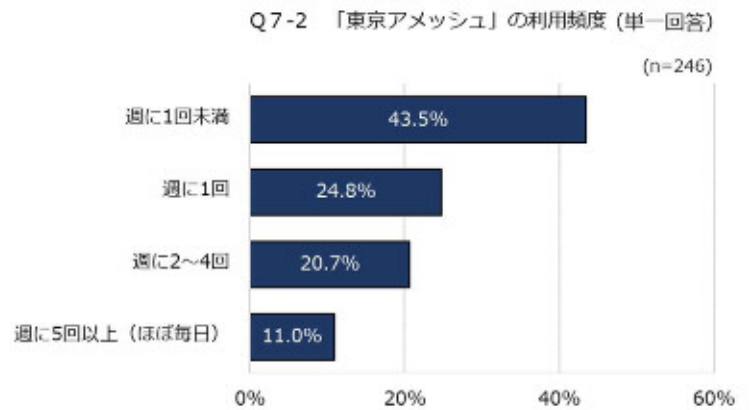
3(1)の利用経験の設問(Q6)で「利用している(必要な時に利用している)」と回答した246人は、「スマートフォン版」の利用が最も多かった。

Q7-1 「東京アメッシュ」の利用タイプ (単一回答)



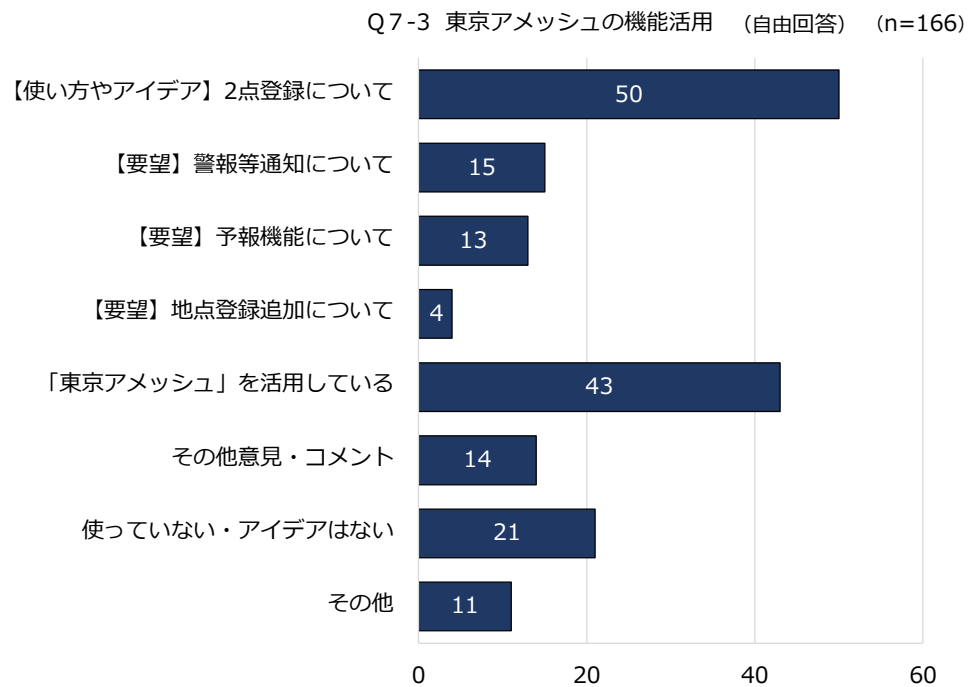
(3) 「東京アメッシュ」の利用頻度

3 (1) の利用経験の設問 (Q6) で「利用している (必要な時に利用している)」と回答した 246 人の利用頻度は「週に 1 回未満」が最も多かったが、「週に複数回 (2~4 回、5 回以上)」の回答も約 3 割あった。



(4) 「東京アメッシュ」(スマートフォン版) の機能活用

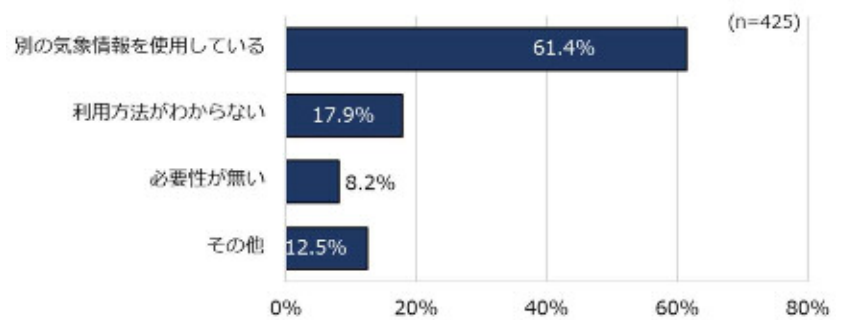
東京アメッシュの GPS 機能に関する設問に対して、自由回答は 166 件だった。スマートフォン版の機能を活用した使い方や使い方に関するアイデアは 50 件で、そのほか「東京アメッシュ」を活用している感想や付加してほしい機能や要望が挙げられた。



(5) 「東京アメッシュ」を利用しなくなった理由

3(1)の利用経験の設問(Q6)で「利用しなくなった」「利用していない」425人の利用しない理由は「別の気象情報を使用している」が最も多く、次いで「利用方法がわからない」との回答だった。

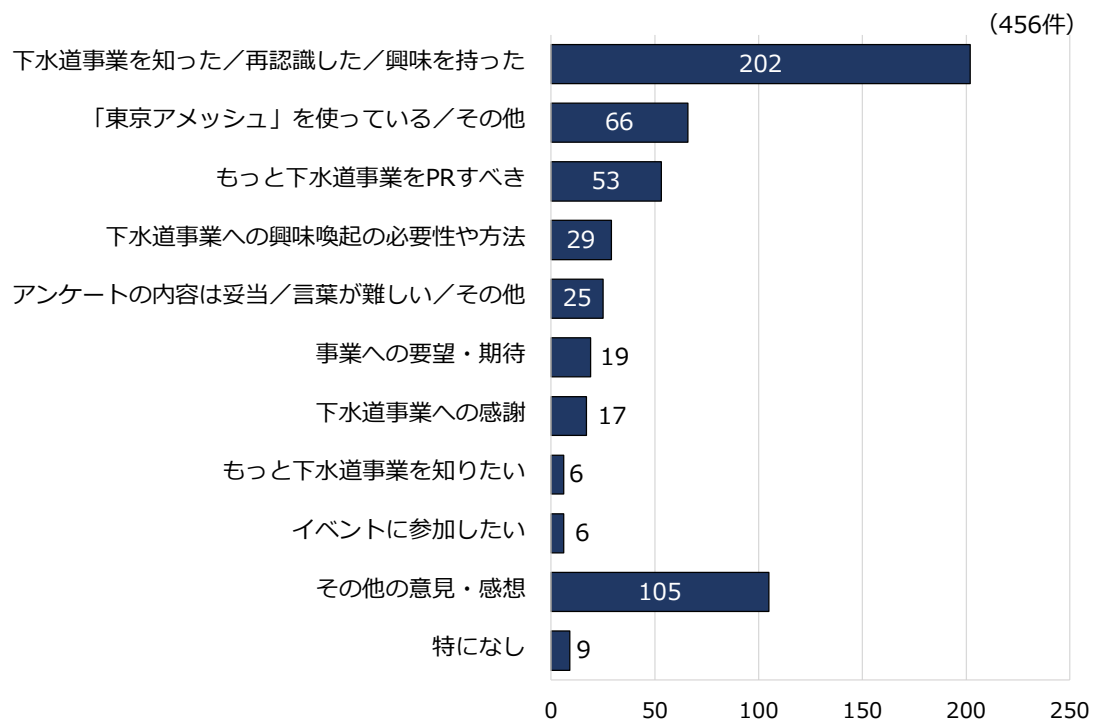
Q8 「東京アメッシュ」を利用しなくなった理由(複数回答)



4 局へのご意見・ご要望

アンケートやモニター活動で「下水道事業を知った」等の意見が最も多く、次いで「東京アメッシュ」を使っている」「もっとPRすべき」が多かった。

Q9 局へのご意見・ご要望(自由回答)



II 回答者の属性

第2回モニターアンケートは、令和4年7月12日（火）から7月26日（火）まで実施した。その結果、671名の方から回答があった。（回答率70.1%）

1 回答者数（性別、年代、地域、職業）

性別	回答者数	回答者中の割合
男性	253	37.7%
女性	418	62.3%
合計	671	100.0%

年代	回答者数	回答者中の割合
20歳代以下	47	7.0%
30歳代	128	19.1%
40歳代	182	27.1%
50歳代	153	22.8%
60歳代	104	15.5%
70歳以上	57	8.5%
合計	671	100.0%

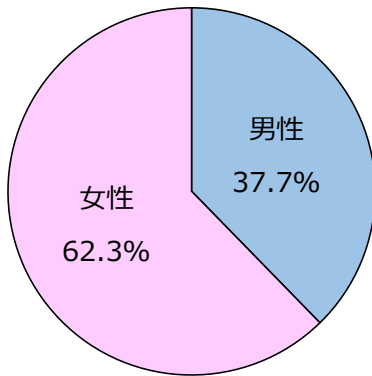
地域	回答者数	回答者中の割合
23区部	303	45.2%
多摩地区	368	54.8%
合計	671	100.0%

職業	回答者数	回答者中の割合
会社員	279	41.6%
自営業・家族従業	36	5.4%
学生	14	2.1%
学校教員・塾講師	3	0.4%
パート・アルバイト	103	15.4%
専業主婦	148	22.1%
無職	68	10.1%
その他	20	3.0%
合計	671	100.0%

※10歳代（18歳及び19歳）と20歳代の回答は「20歳代以下」として集計した。

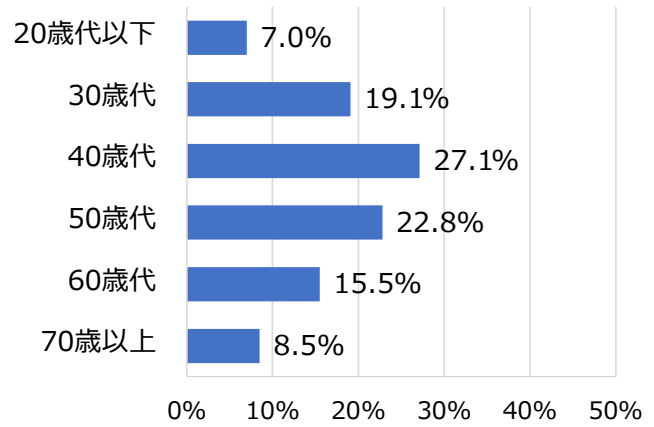
2 回答者属性別グラフ

回答者 性別



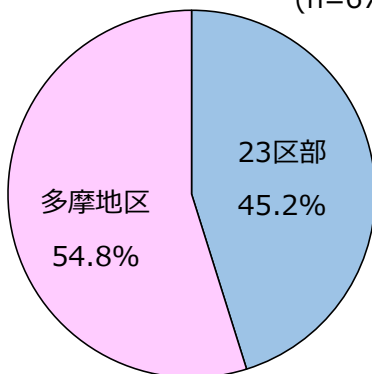
回答者 年代

(n=671)



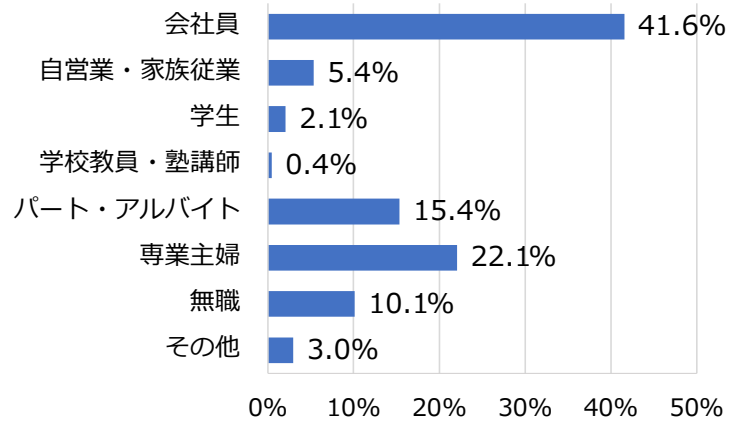
回答者 地域

(n=671)



回答者 職業

(n=671)



III 集計結果

1 東京都下水道局が行っている浸水対策の取組

(1) 浸水対策の取組の内容や意味の認知度

-
- ◆ 下水道の浸水対策への認知度について、「内容や意味を十分に知っている」、「内容や意味を少し知っている」と「言葉を聞いたことがある程度」を合わせた『認知度あり』では、「(3) 雨水調整池の整備」と「(9) 浸水予想区域図の公表」が 78.1% と最も高く、次いで「(5) 大規模地下街対策」が 69.3% となった。
 - ◆ 『認知度あり』を男女別では、全体的に、男性の認知度が高い傾向があった。
 - ◆ 『認知度あり』を年代別では、どの対策も年代の上昇とともに認知度が上がる傾向が見られた。
-

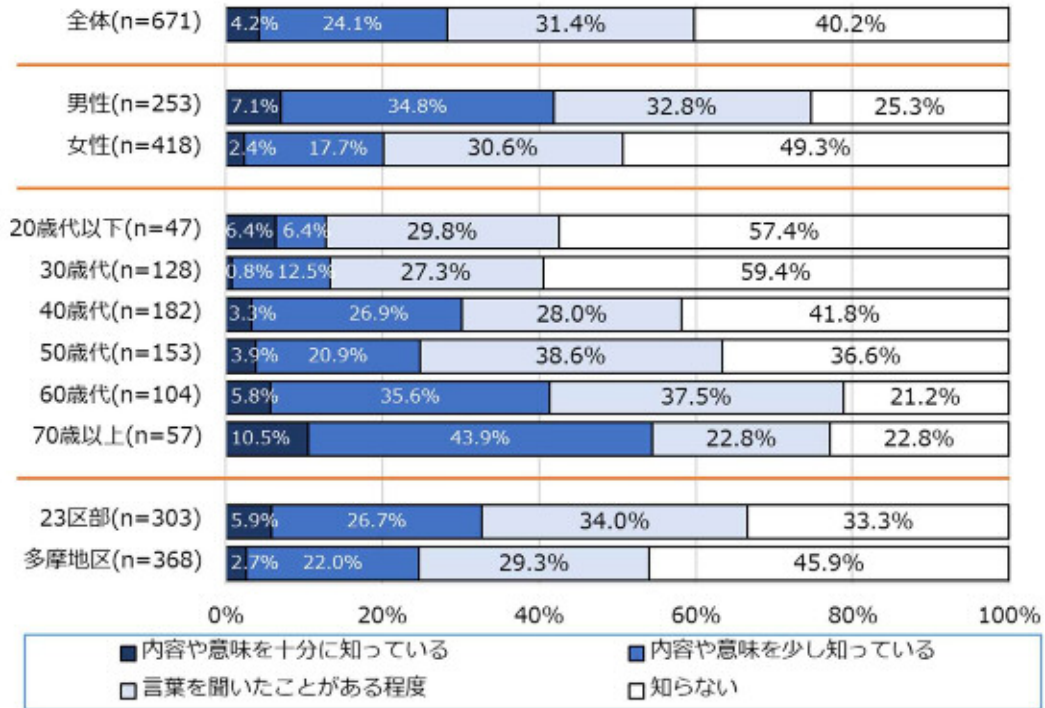
『浸水対策』について

近年、都市化が進んだことによる雨水流入量の増加や頻発する局地的な大雨などによって、浸水被害が発生しています。東京都下水道局では、大雨から街を守るため、下水道管や貯留施設の整備など、下水道による浸水対策を進めています。

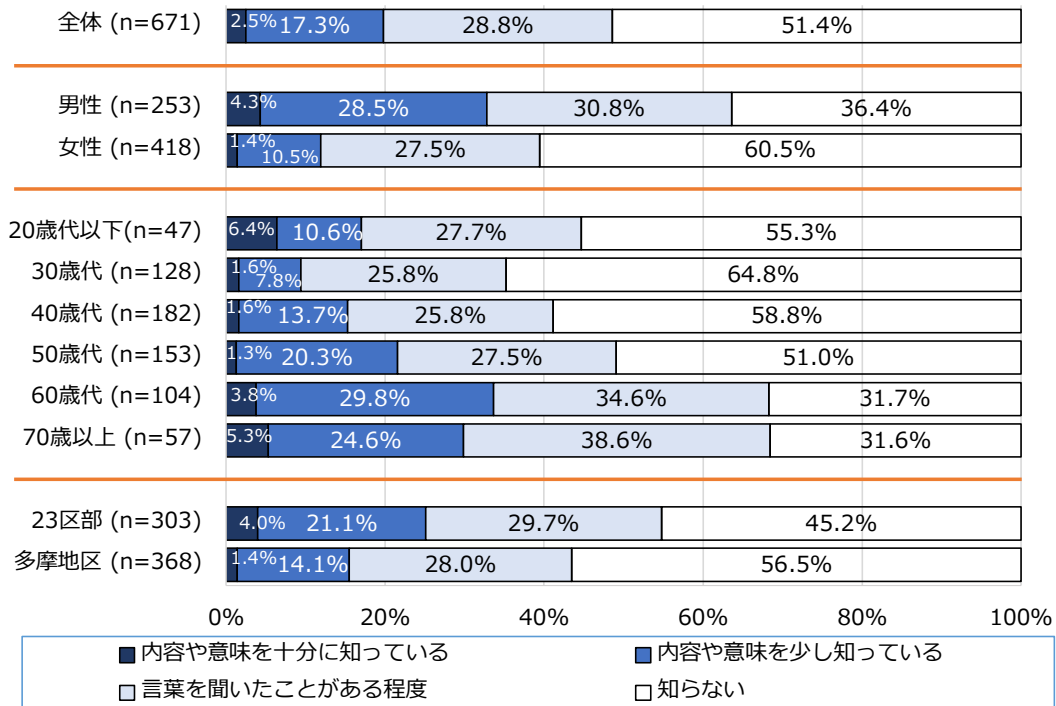
Q 1 東京都下水道局が行っている浸水対策の取組について伺います。

最初に、以下のそれぞれの取組について、内容や意味をご存知かどうかお聞きします。(1) から (10) について、選択肢から該当するものを一つだけお選びください。(単一回答)

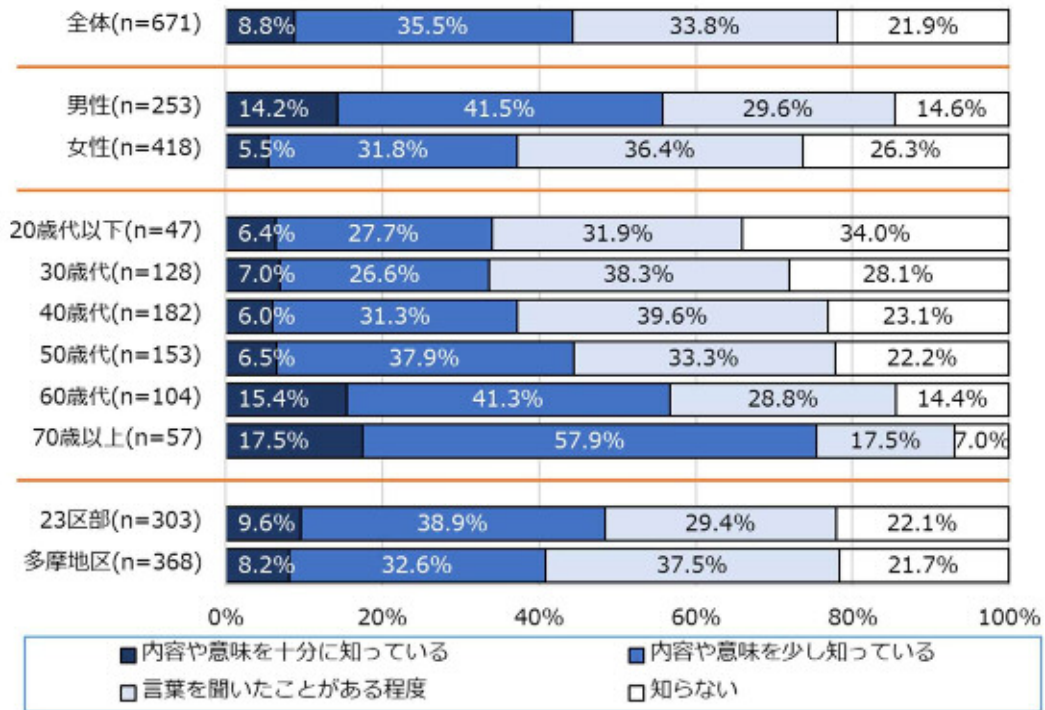
Q1 - (1) 「浸水対策幹線の整備」の内容や意味の認知度



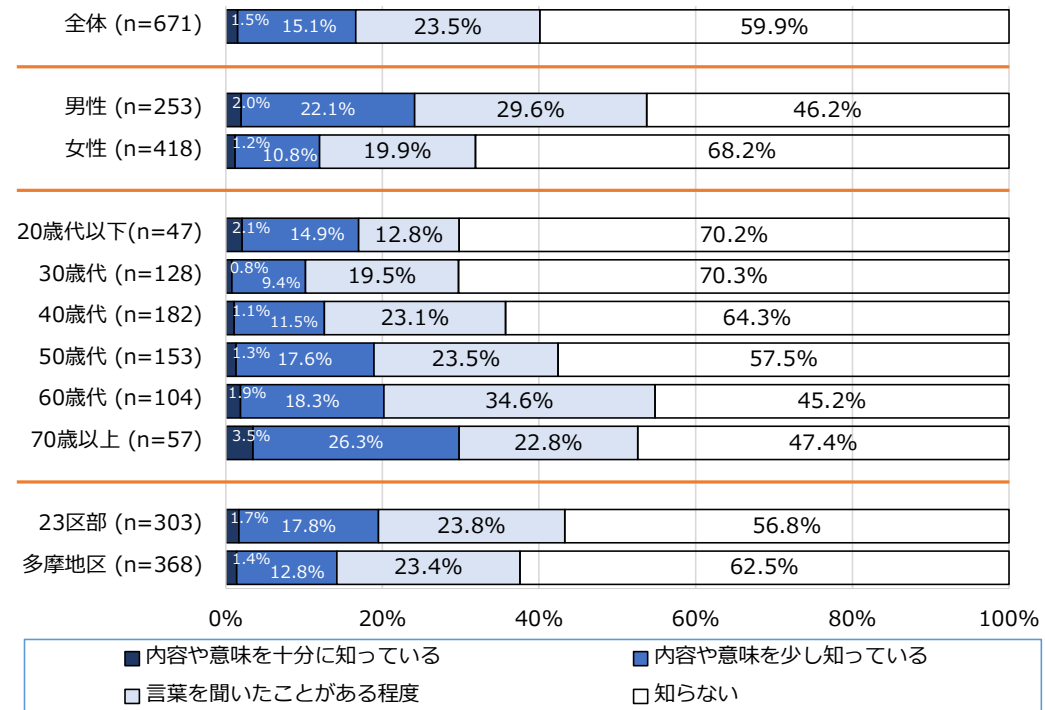
Q1 - (2) 「ポンプ所の能力増強」の内容や意味の認知度



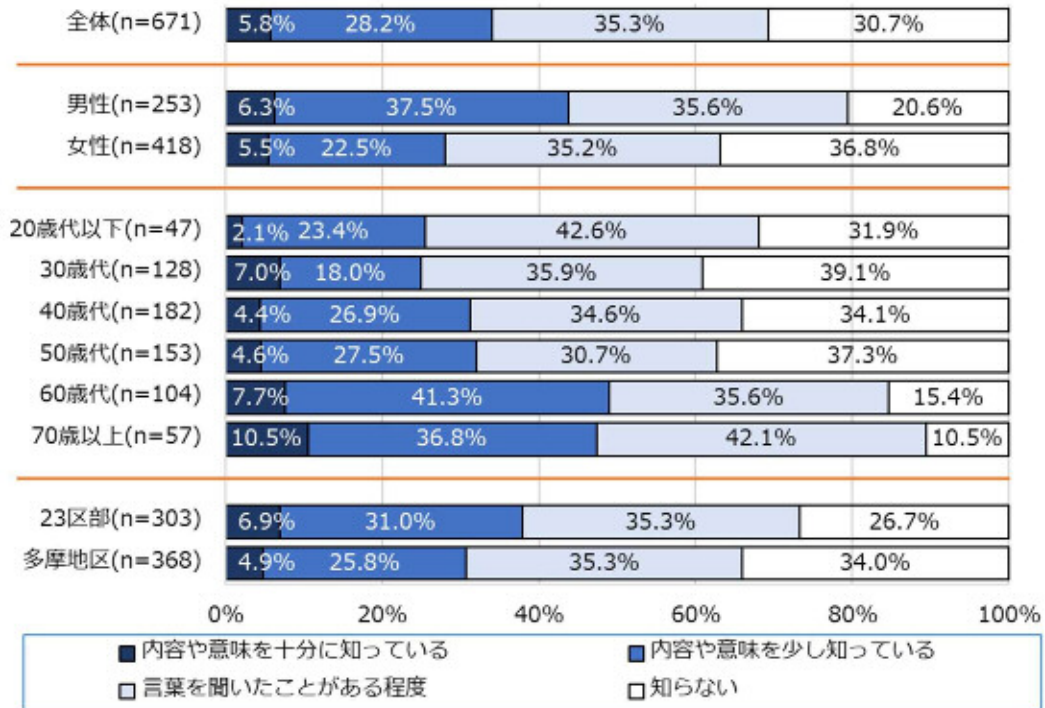
Q1 - (3) 「雨水調整池の整備」の内容や意味の認知度



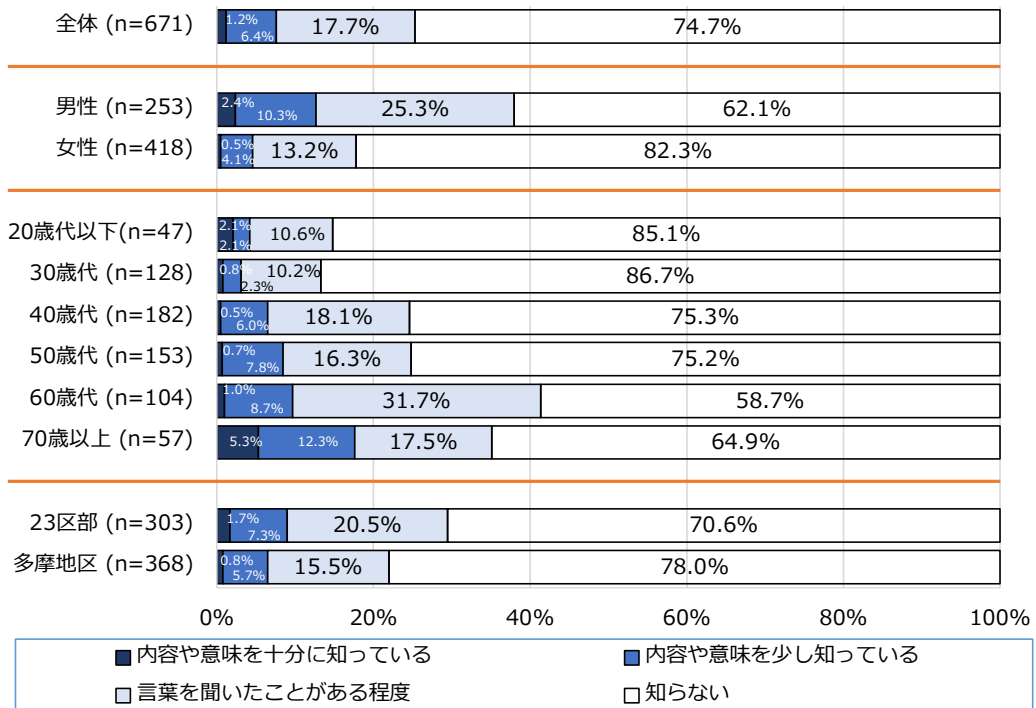
Q1 - (4) 「暫定貯留管の整備」の内容や意味の認知度



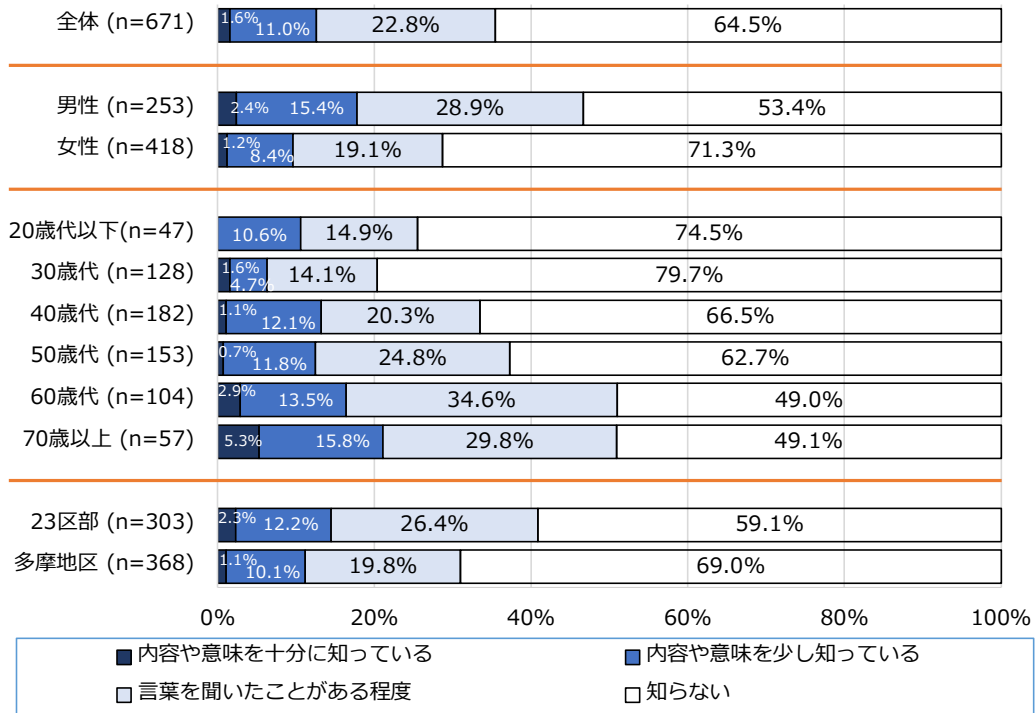
Q 1 - (5) 「大規模地下街対策」の内容や意味の認知度



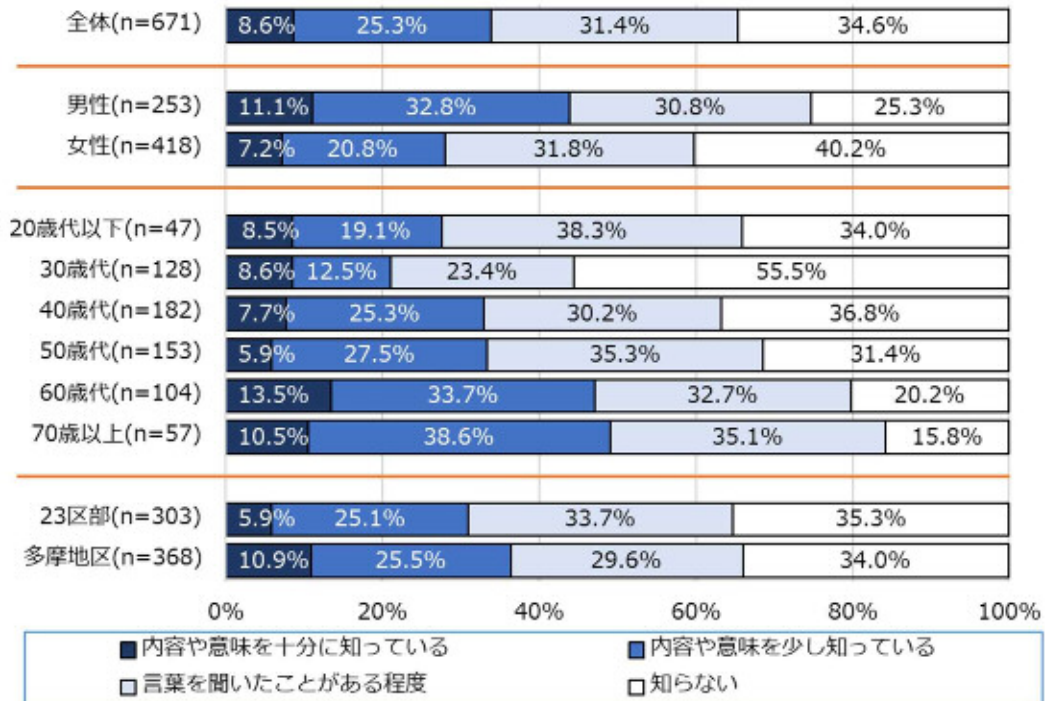
Q 1 - (6) 「枝線の増径」の内容や意味の認知度



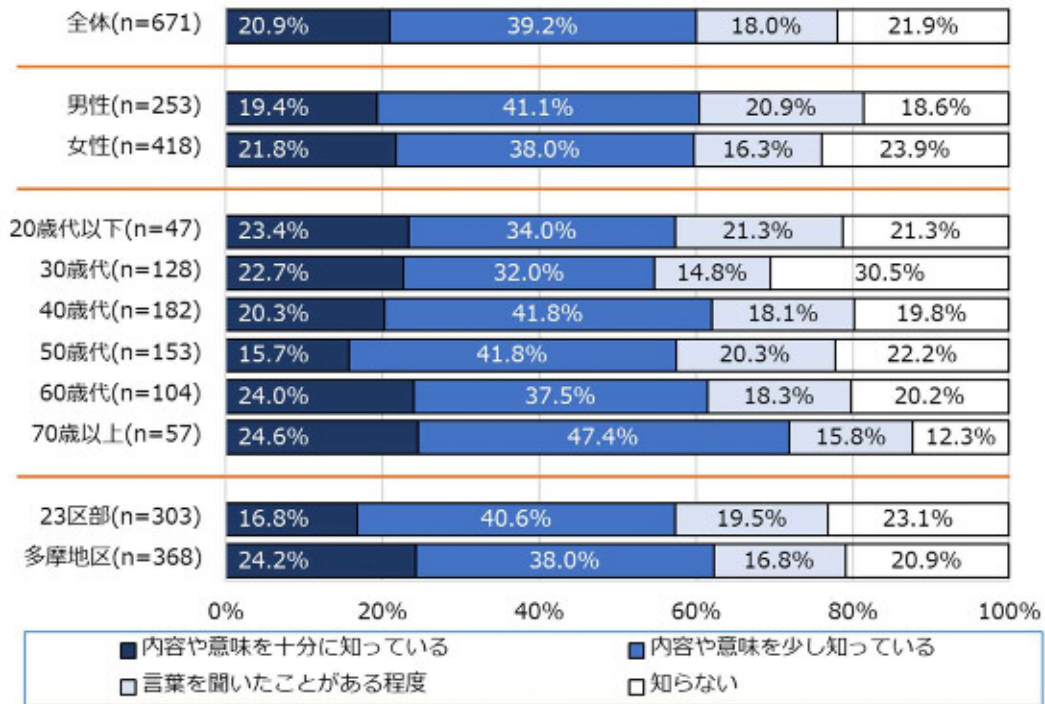
Q 1 - (7) 「増補管やバイパス管の整備」の内容や意味の認知度



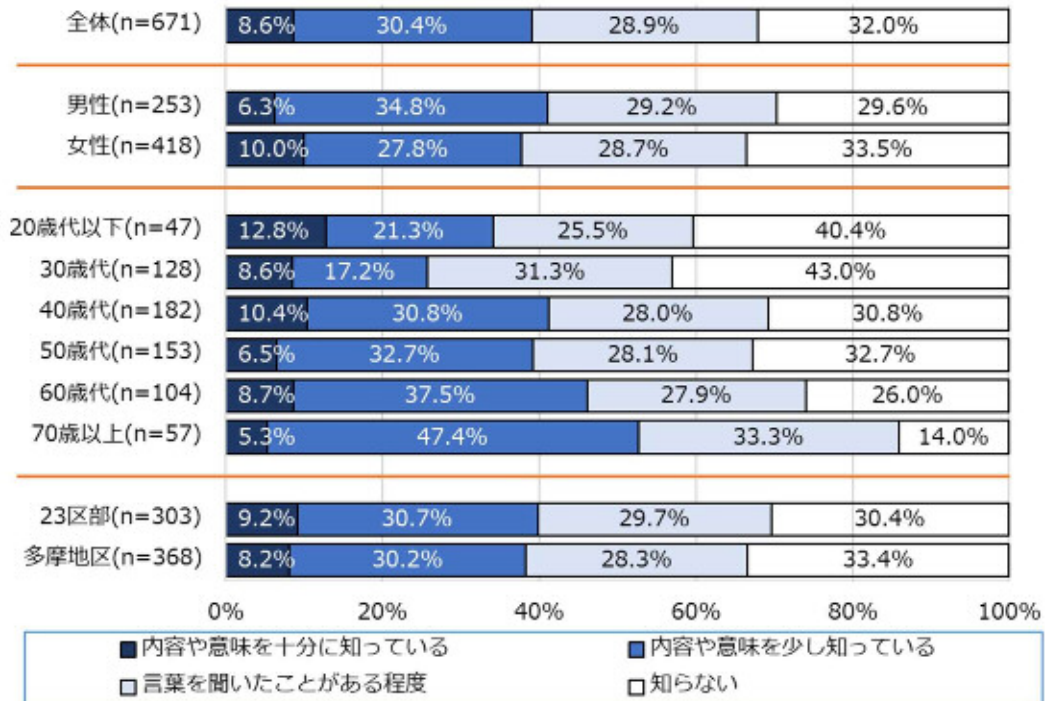
Q 1 - (8) 「雨水浸透ますの設置」の内容や意味の認知度



Q1 - (9) 「浸水予想区域図の公表」の内容や意味の認知度



Q1 - (10) 「地下室・半地下建物における注意喚起」の内容や意味の認知度



(2) 浸水対策の取組への理解

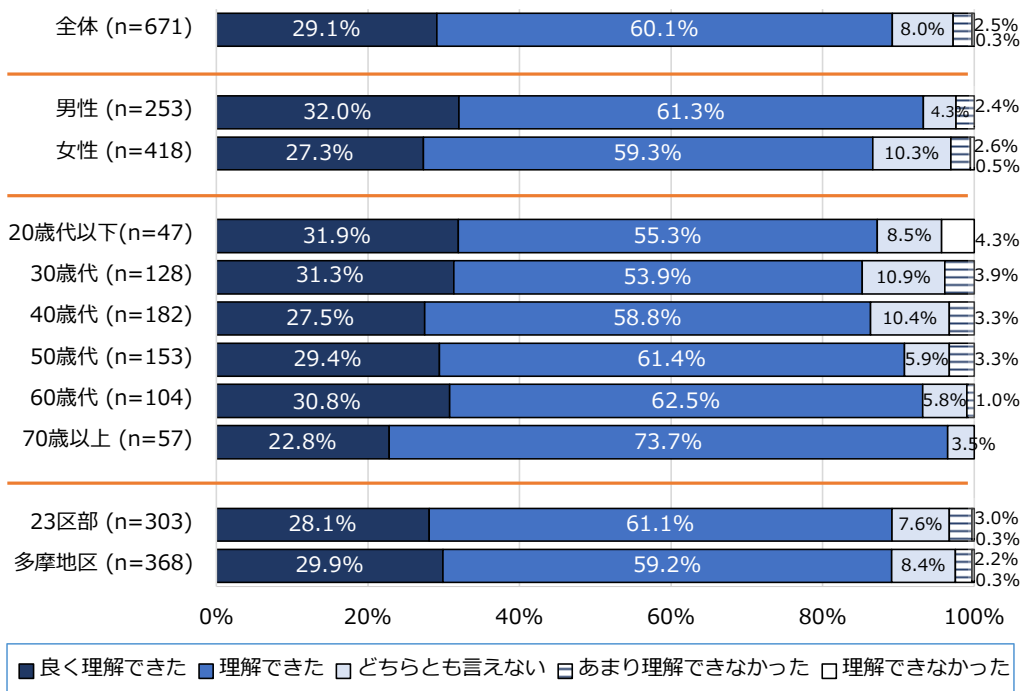
- ◆ 浸水対策のイメージと具体策提示したのち、各取組への理解を尋ねたところ、いずれの取組も約9割が『理解できた（よく理解できた、理解できた）』と回答した。
- ◆ 男女別では『理解できた』傾向に大きな違いはなかった。
- ◆ 各年代で最も理解度が高いものは、20歳代以下・30歳代・40歳代が「(9)「浸水予想区域図の公表」で各年代ともに90%以上、50歳代が「(3)雨水調整池の整備(93.5%)」、60歳代は「(1)浸水対策幹線の整備(93.3%)」、70歳以上も「(1)浸水対策幹線の整備(96.5%)」となった。

Q2 浸水対策のイメージと具体策をご覧ください。

以下に示す各取組への理解について、(1)から(10)について、該当するものを一つだけお選びください。
(単一回答)

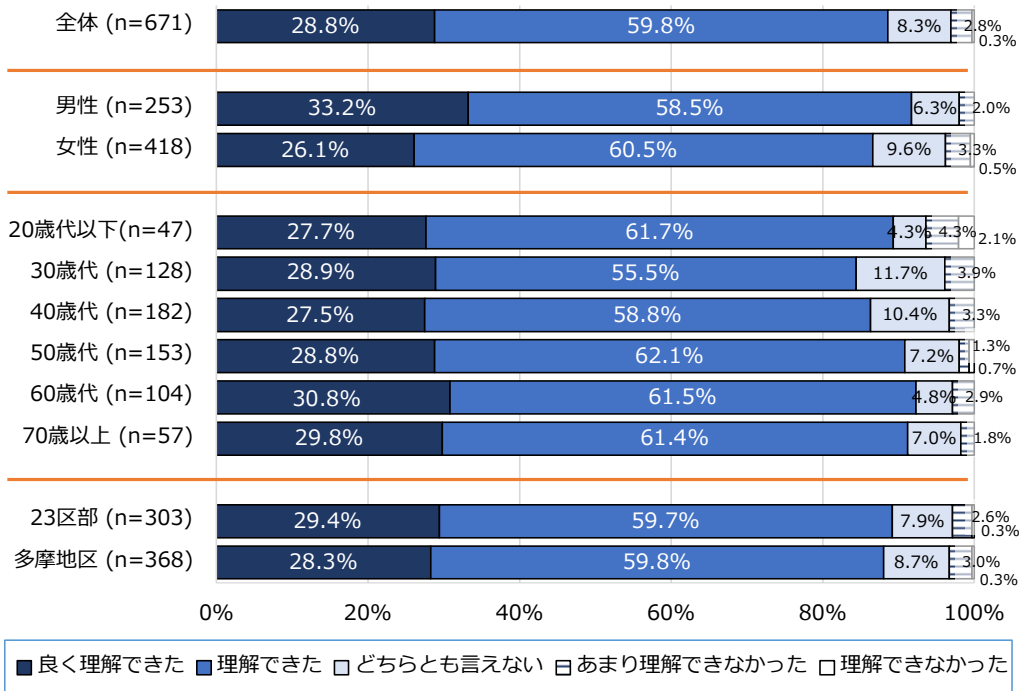
Q2-(1)「浸水対策幹線の整備」への理解

新たな幹線を整備して、雨水排除能力を高めます。



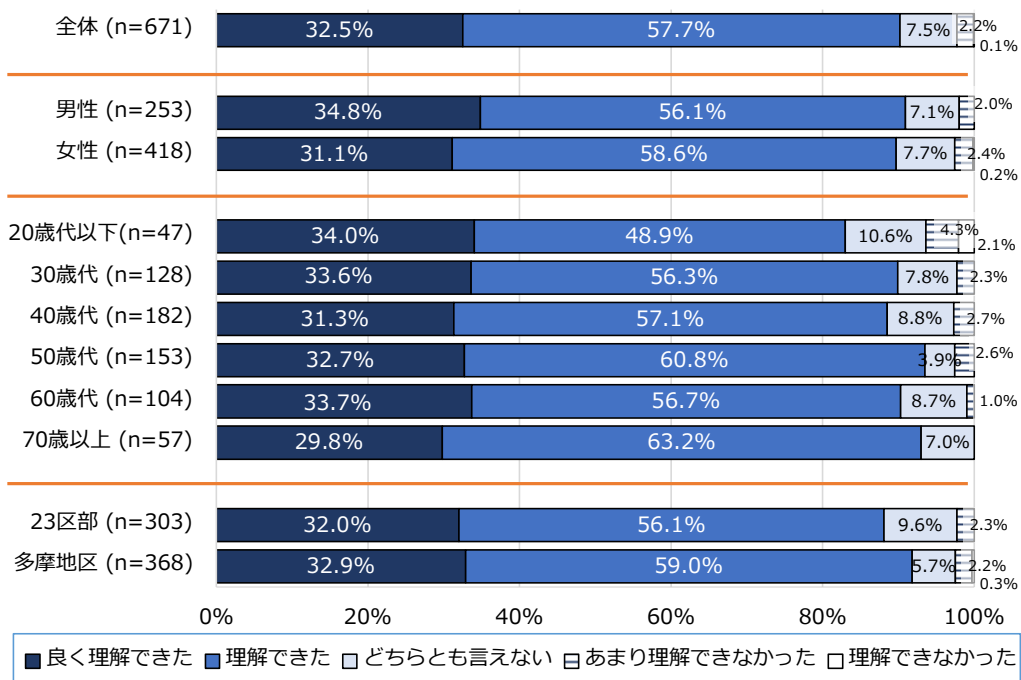
Q 2 - (2) 「ポンプ所の能力増強」 への理解

下水道管に流入した雨水をまとめて汲み上げて、河川に放流するポンプ施設を整備します。



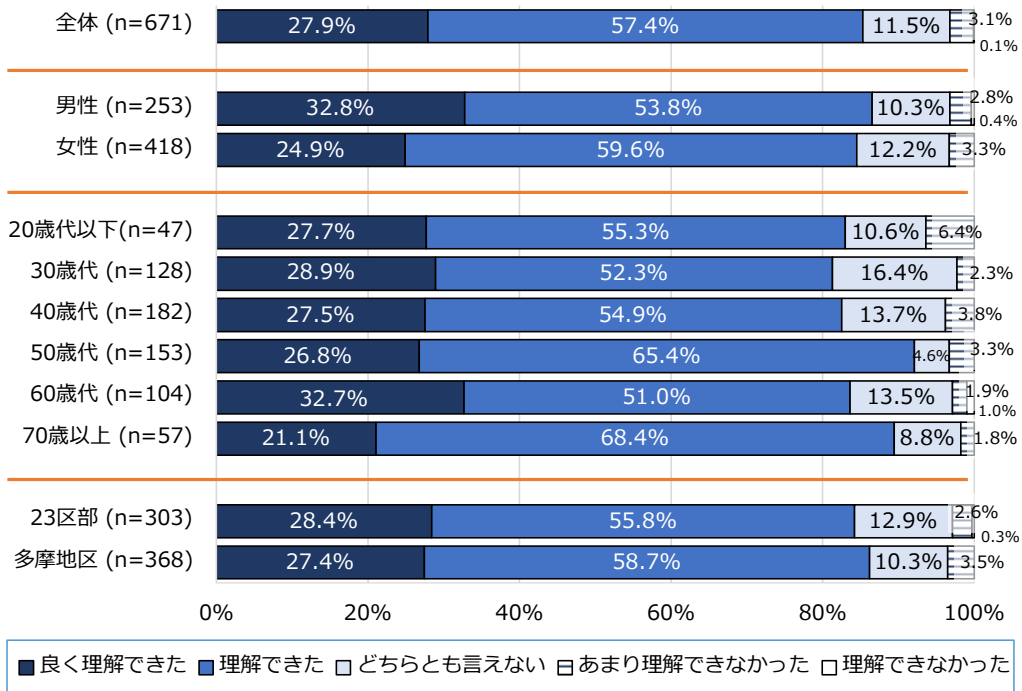
Q 2 - (3) 「雨水調整池の整備」 への理解

浸水被害の危険性が高い地域において、下水道管の流下能力を超える雨水を貯留する施設を整備します。



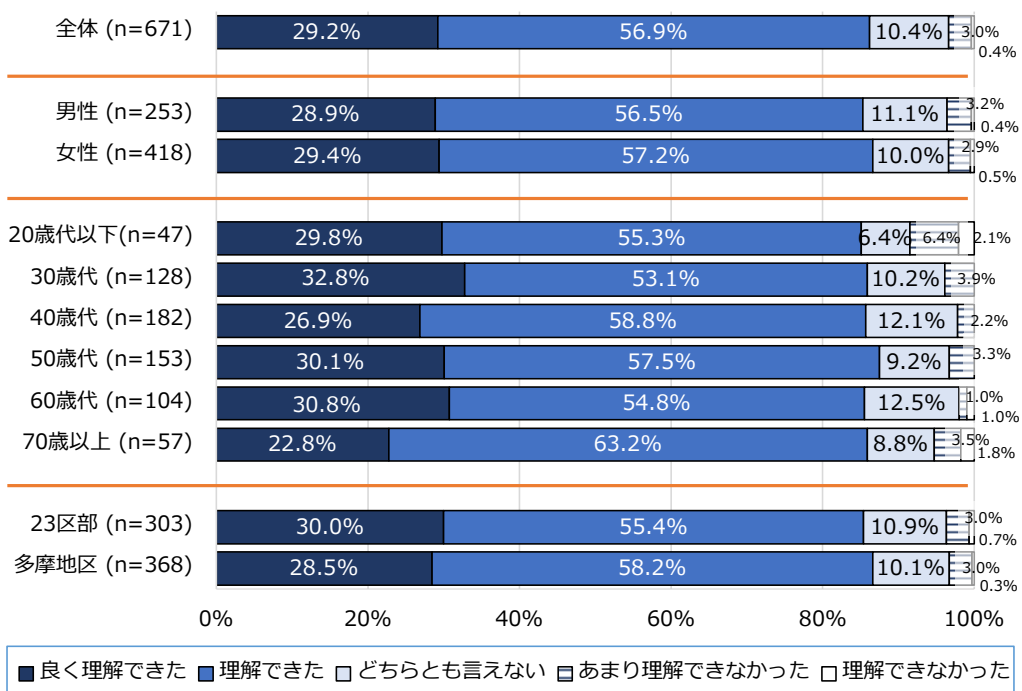
Q 2 - (4) 「 暫定貯留管の整備 」 への理解

下水道管の能力を超える雨水を暫定的に貯留する施設を整備します。



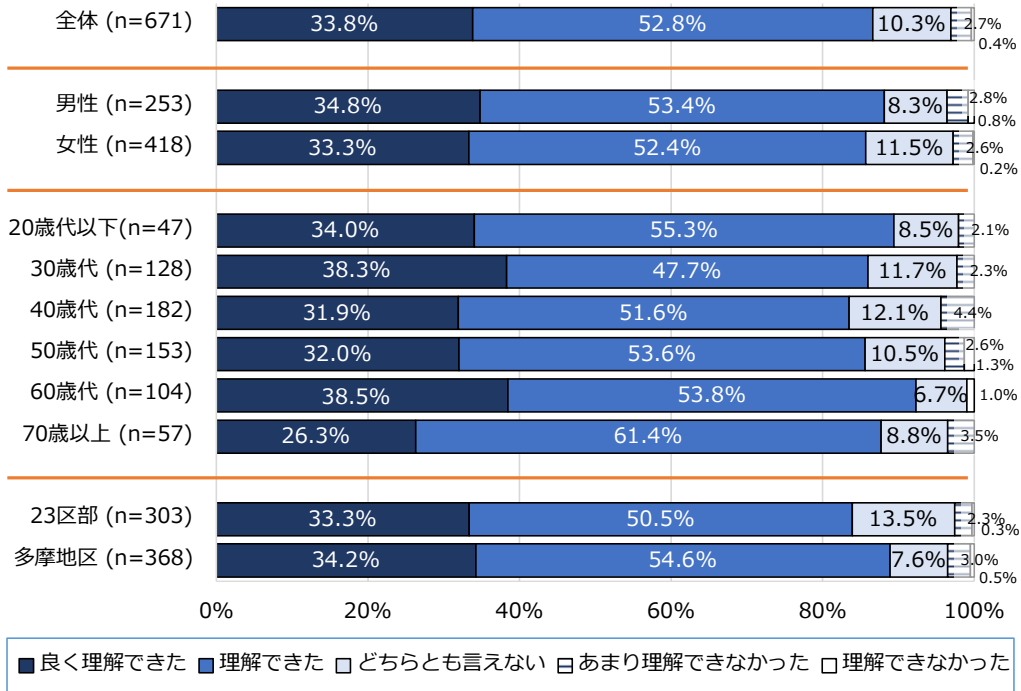
Q 2 - (5) 「 大規模地下街対策 」 への理解

1時間 75 ミリ降雨時に、地下街への雨水侵入を防止するための施設を整備します。



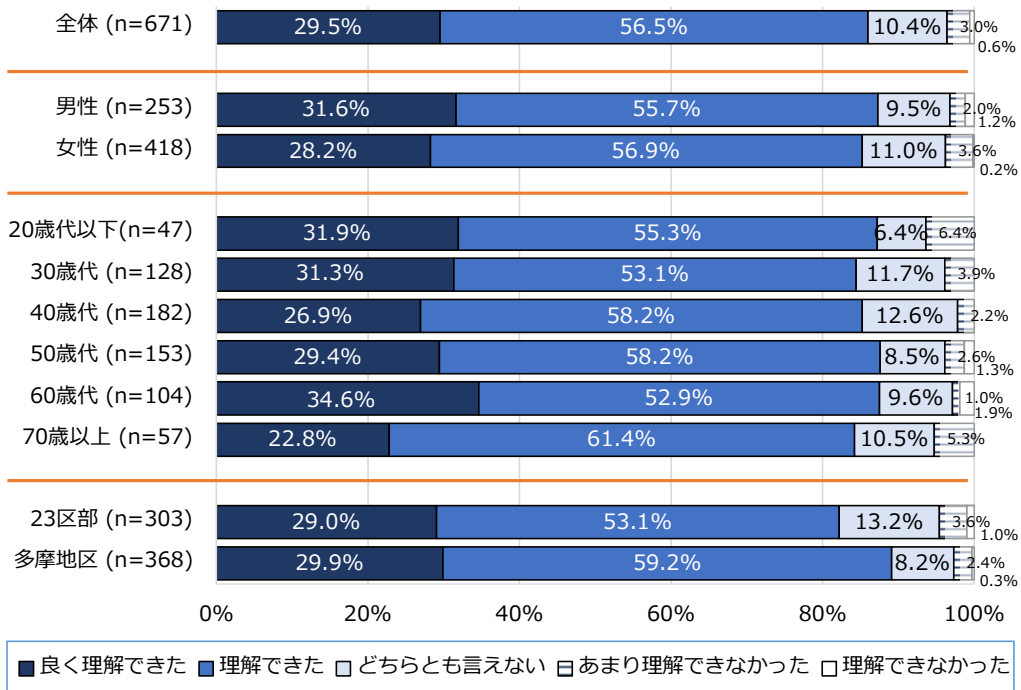
Q2 - (6) 「枝線の増径」への理解

古くなった下水道管を新しいものに入れ替える際に、下水道管を大きくして流下能力を高めます。



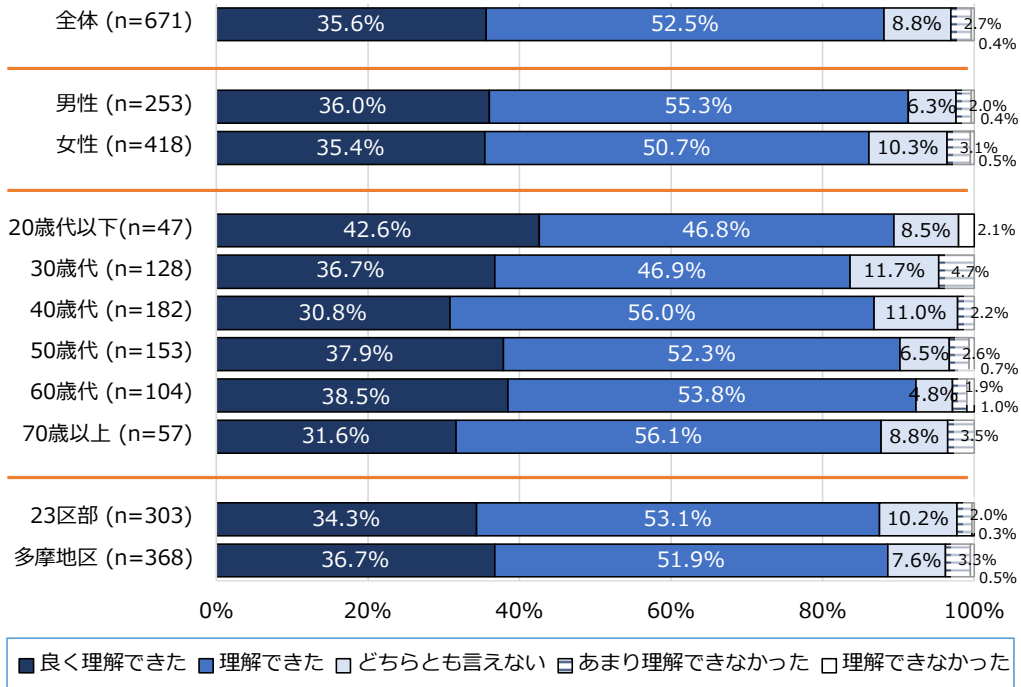
Q2 - (7) 「増補管やバイパス管の整備」への理解

下水道管を追加（増補管）、水の流れを変えたりして（バイパス管）、浸水被害が起こりやすい箇所における下水道管の流下能力を高めます。



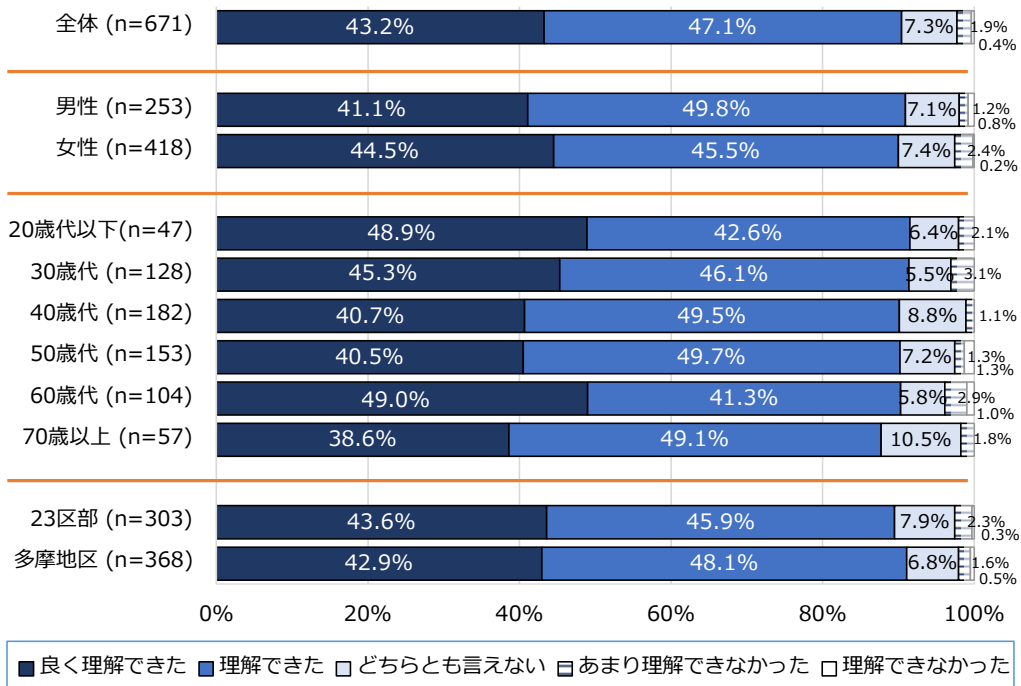
Q2 - (8) 「雨水浸透ますの設置」への理解

学校、公園、庁舎などの公共施設や戸建て住宅や集合住宅・事業所等の宅地において、降った雨を地下に浸透させ、下水道管への雨水の流入を抑制する施設の設置を促進します。
 なお、宅地内への浸透ます等の設置には、助成制度を設けている特別区もあります。



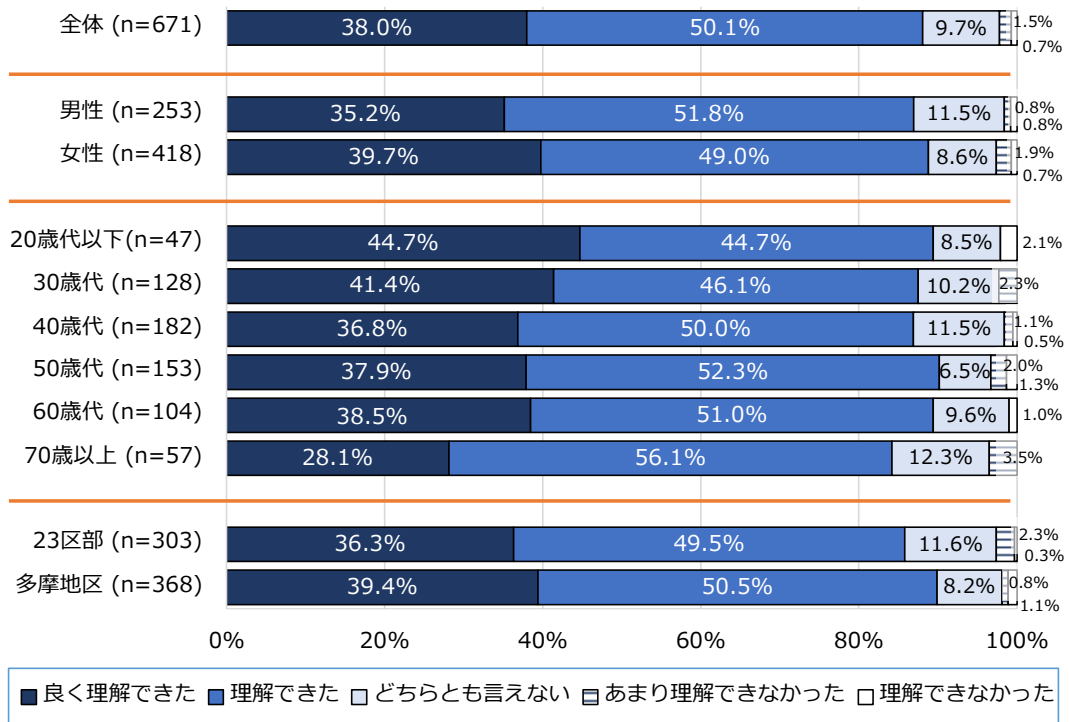
Q2 - (9) 「浸水予想区域図の公表」への理解

河川周辺の浸水の被害予想区域についてホームページ等で周知しています。
<https://www.gesui.metro.tokyo.lg.jp/living/a3/inundation/>



Q 2 - (1 0) 「地下室・半地下建物における注意喚起」への理解

豪雨時に下水道管から室内への逆流を防止するため、排水ポンプの設置や止水板、土のう等の準備といったご家庭における浸水予防策をお願いしています。



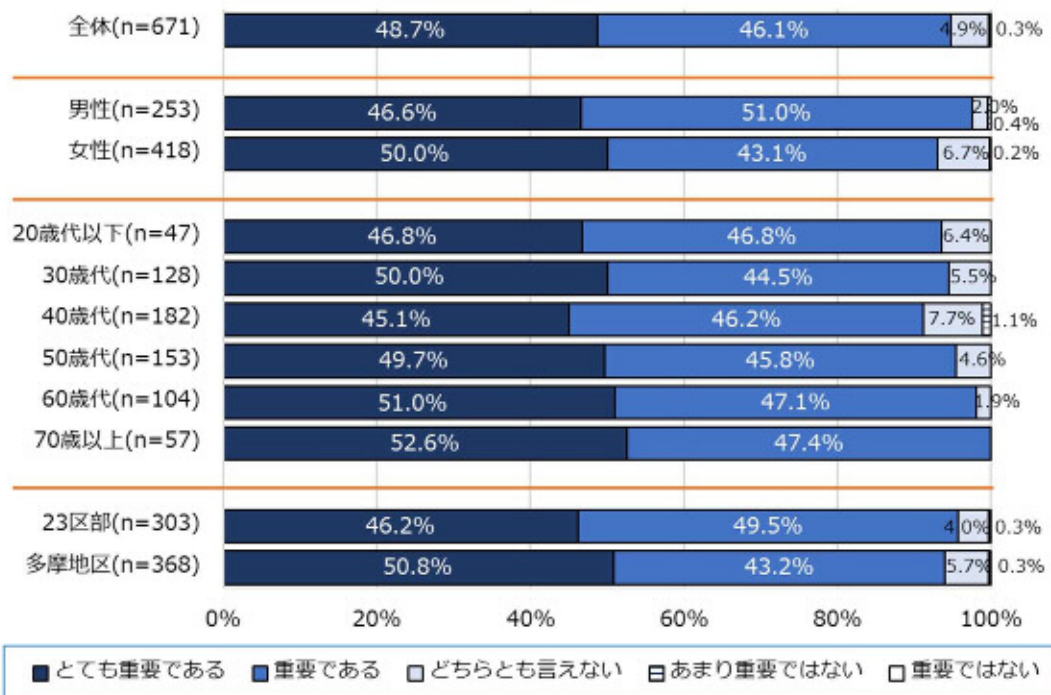
(3) 浸水対策の取組の重要度

- ◆ 各取組をどのくらい重要と考えるかでは、「とても重要である」と「重要である」を合わせた『重要である』は「(3)雨水調整池の整備」が最も高く、次いで「(8) 雨水浸透ますの設置」だった。
- ◆ 男女別では、男性のほうが『重要である』との評価がやや高い傾向だった。
- ◆ 年代別では、いずれの年代もほとんどの施策で9割を超える高い評価だった。

Q3 浸水対策として以下の取組を推進することで、都市機能を確保し、安全・安心な暮らしを実現します。各取組について、あなたはどのくらい重要だと思いますか。(単一回答)

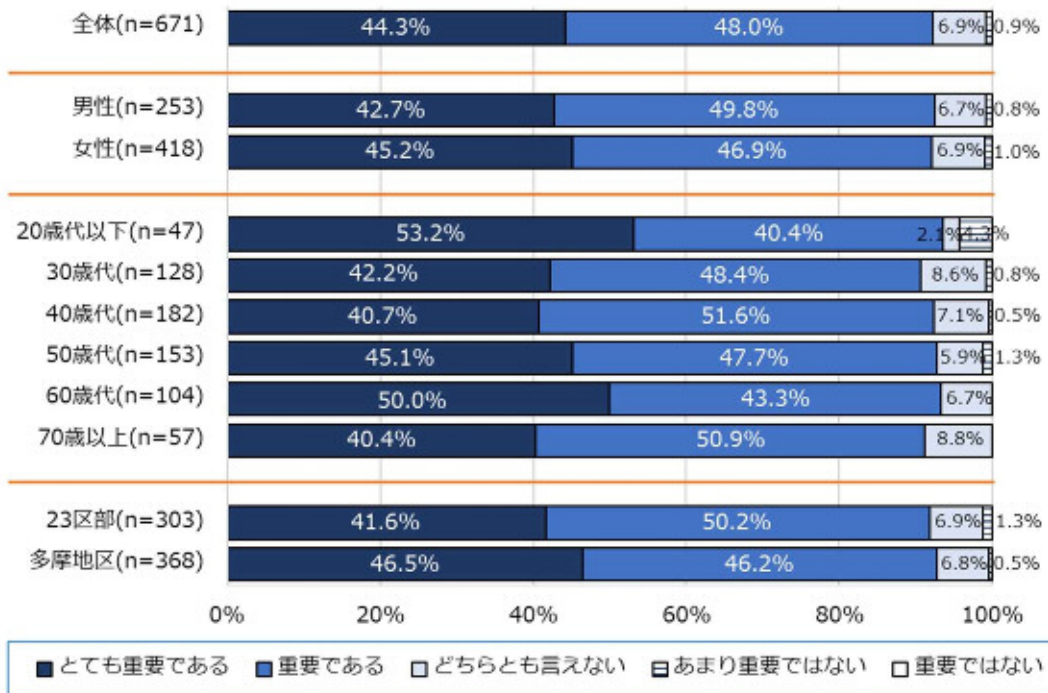
Q3-(1)「浸水対策幹線の整備」の重要度

新たな幹線を整備して、雨水排除能力を高めます。



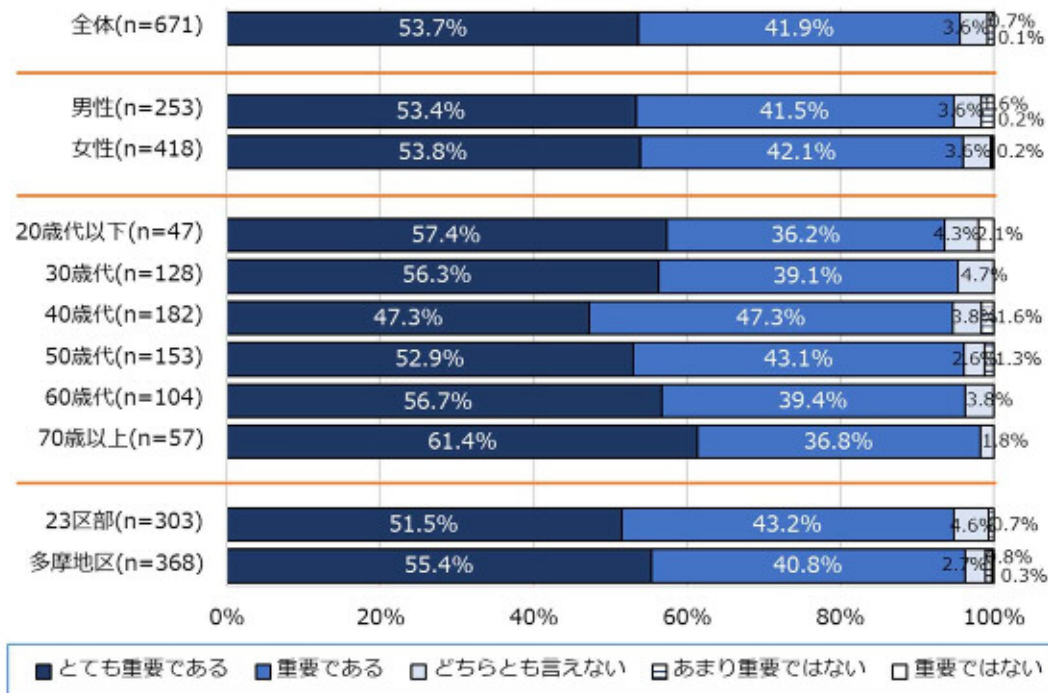
Q3 - (2) 「ポンプ所の能力増強」の重要度

下水道管に流入した雨水をまとめて汲み上げて、河川に放流するポンプ施設を整備します。



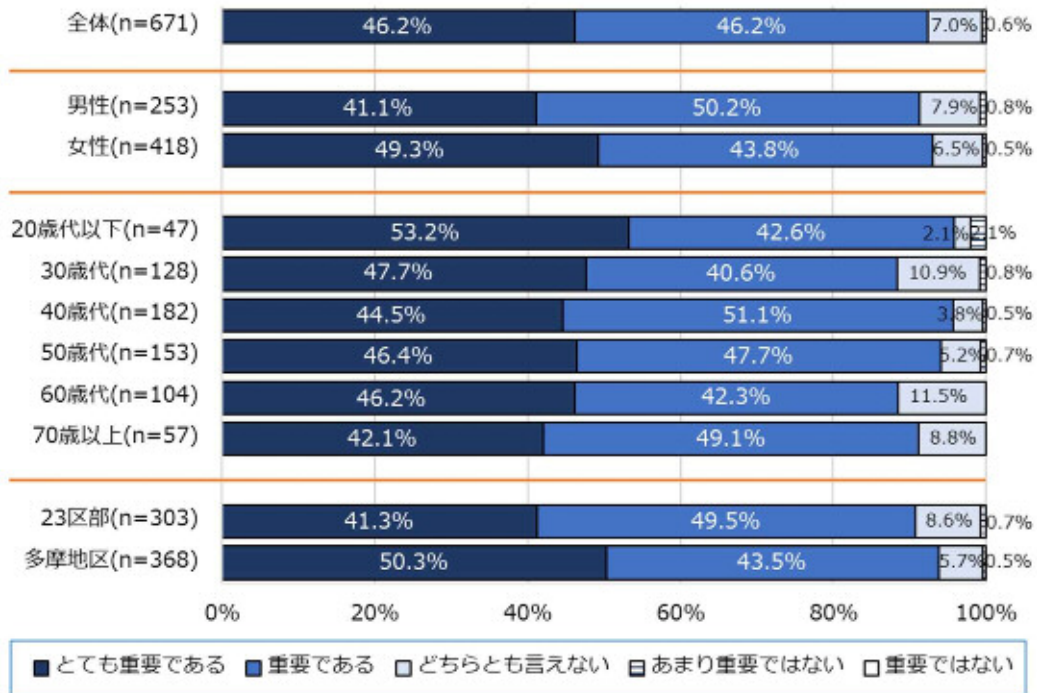
Q3 - (3) 「雨水調整池の整備」の重要度

浸水被害の危険性が高い地域において、下水道管の流下能力を超える雨水を貯留する施設を整備します。



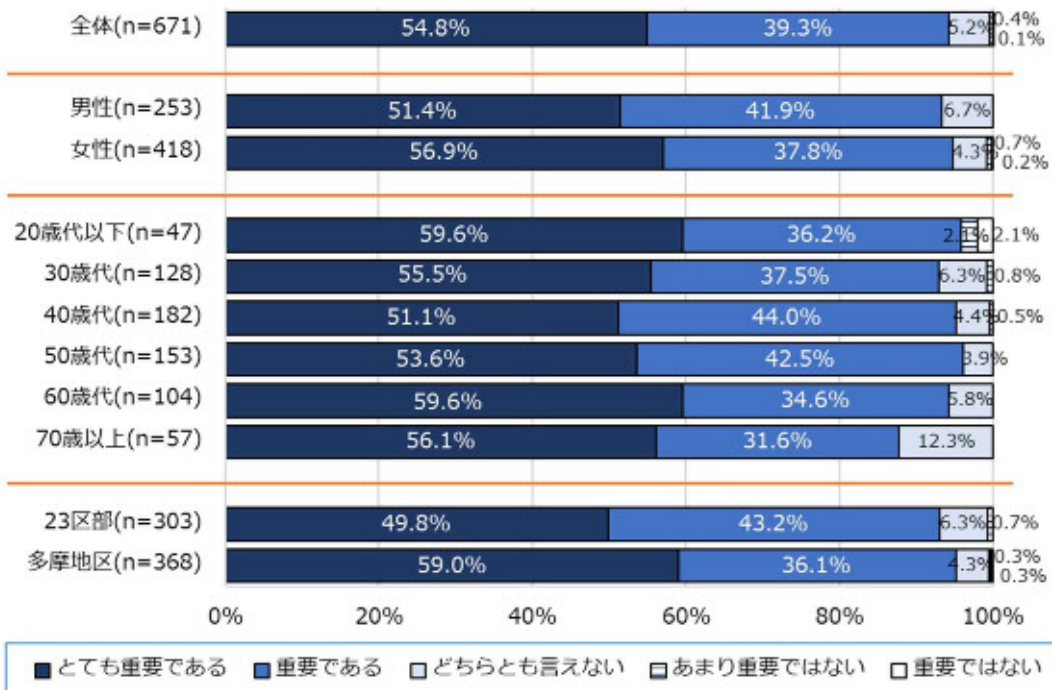
Q3-(4)「暫定貯留管の整備」の重要度

下水道管の能力を超える雨水を暫定的に貯留する施設を整備します。



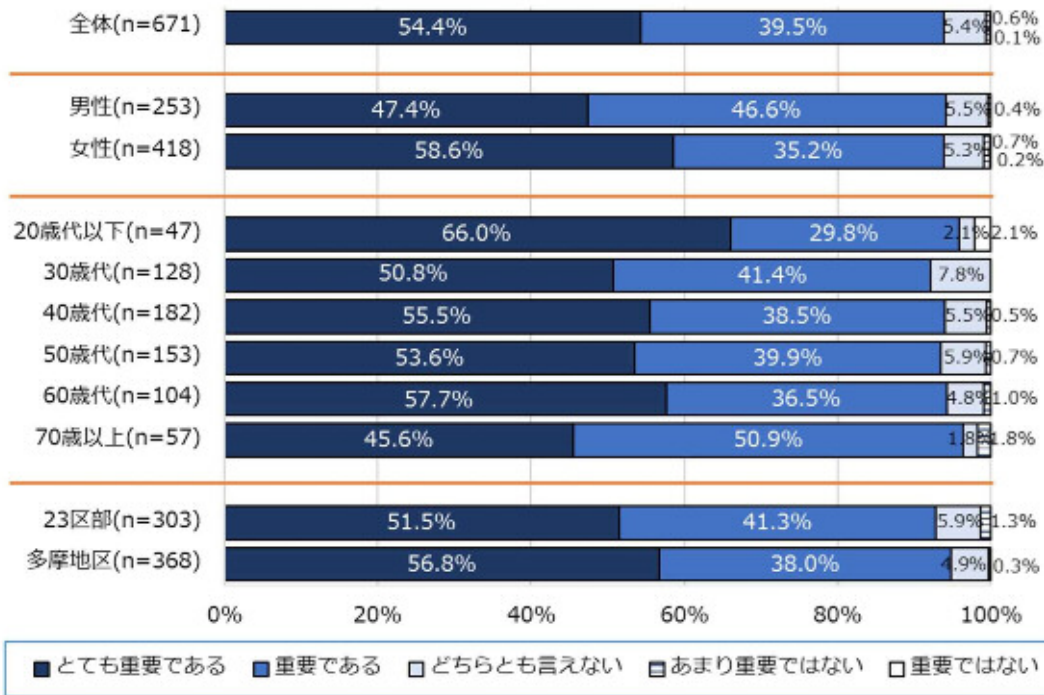
Q3-(5)「大規模地下街対策」の重要度

1時間75ミリ降雨時に、地下街への雨水侵入を防止するための施設を整備します。



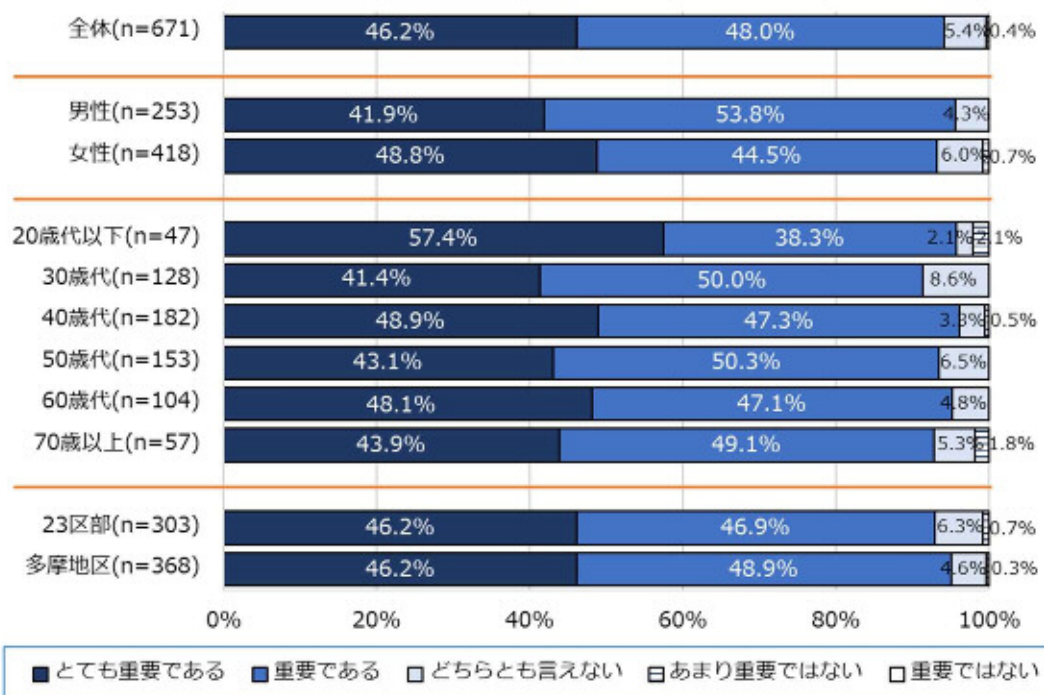
Q3-(6)「枝線の増径」の重要度

古くなった下水道管を新しいものに入れ替える際に、下水道管を大きくして流下能力を高めます。



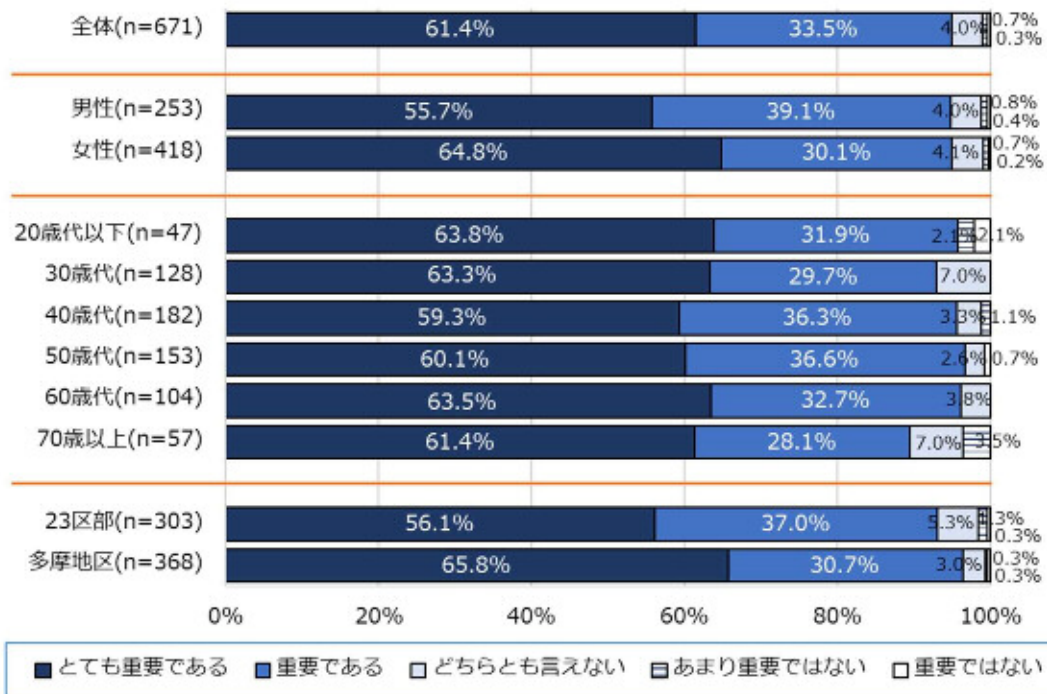
Q3-(7)「増補管やバイパス管の整備」の重要度

下水道管を追加（増補管）、水の流れを変えたりして（バイパス管）、浸水被害が起こりやすい箇所における下水道管の流下能力を高めます。



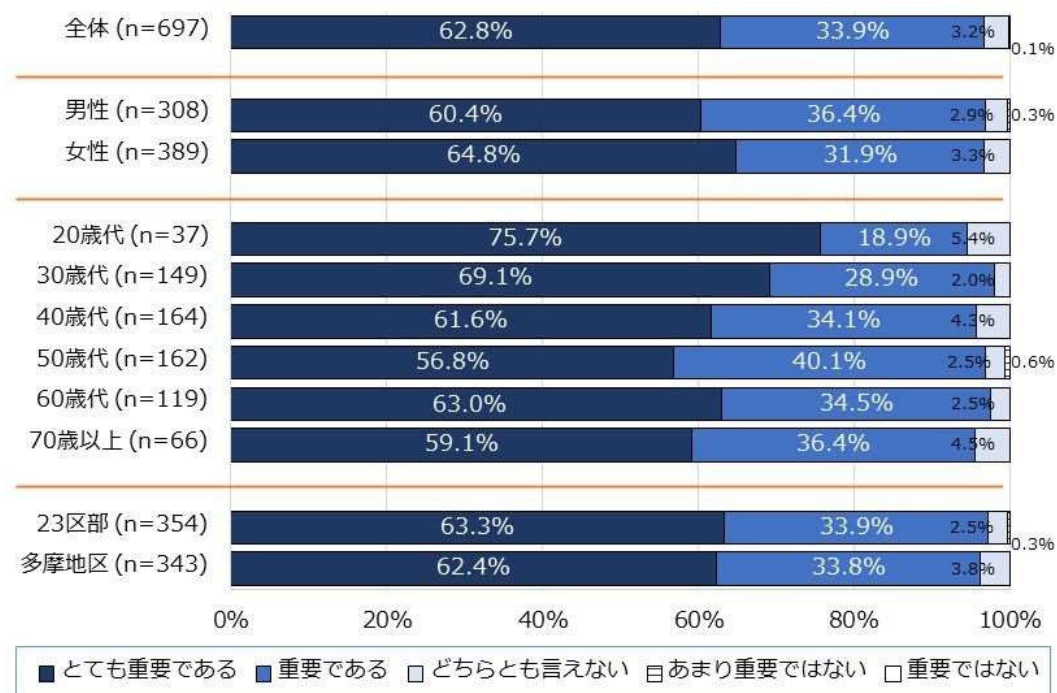
Q3 - (8) 「雨水浸透ますの設置」の重要度

学校、公園、庁舎などの公共施設や戸建て住宅や集合住宅・事業所等の宅地において、降った雨を地下に浸透させ、下水道管への雨水の流入を抑制する施設の設置を促進します。
 なお、宅地内への浸透ます等の設置には、助成制度を設けている特別区もあります。



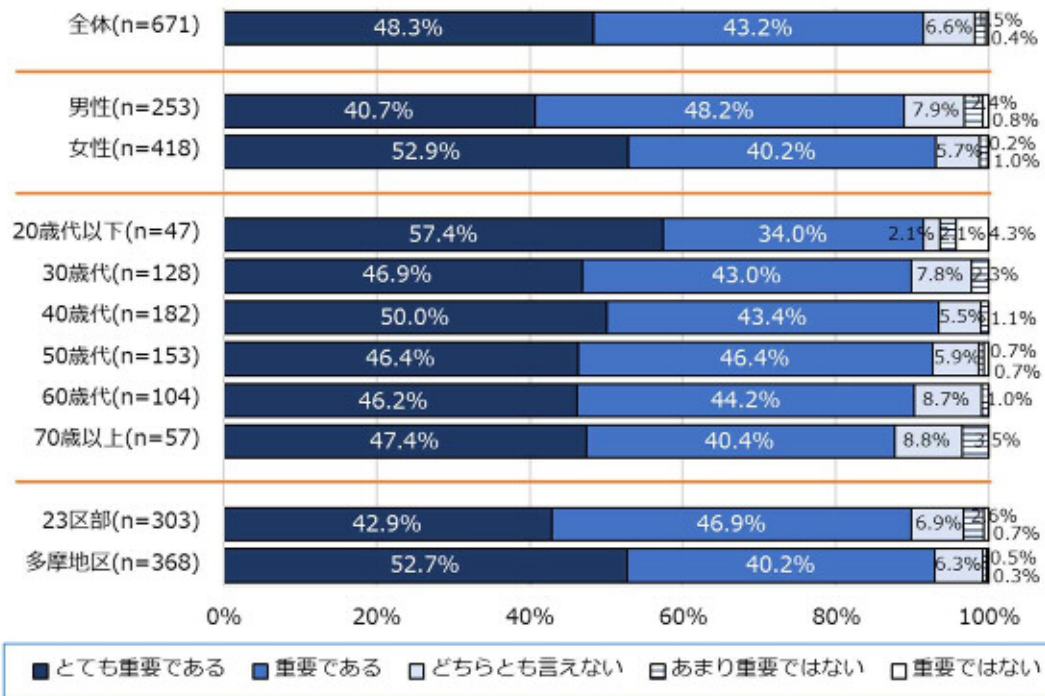
Q3 - (9) 「浸水予想区域図の公表」の重要度

河川周辺の浸水の被害予想区域についてホームページ等で周知しています。
<https://www.gesui.metro.tokyo.lg.jp/living/a3/inundation/>



Q3-(10)「地下室・半地下建物における注意喚起」の重要度

豪雨時に下水道管から室内への逆流を防止するため、排水ポンプの設置や止水板、土のう等の準備といったご家庭における浸水予防策をお願いしています。



2 家庭での浸水対策の取組

(1) 家庭での浸水対策実施の有無

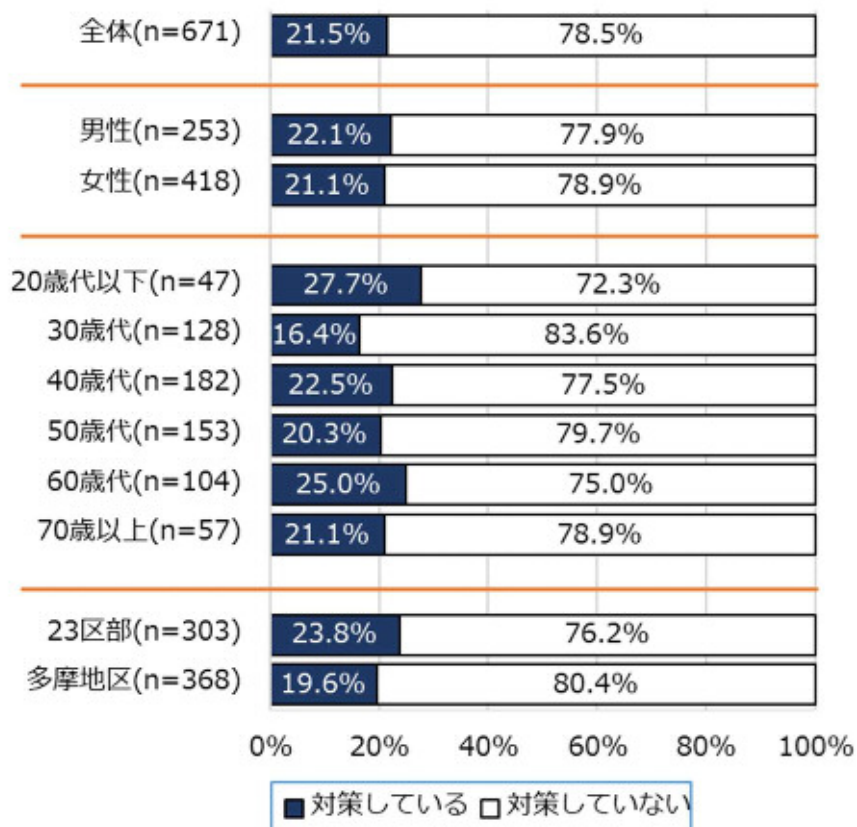
- ◆ 家庭で浸水対策を実施しているのは、回答者の約2割だった。
- ◆ 男女別では大きな違いはなかった。
- ◆ 年代別で『対策している』との回答は、20歳代以下が27.7%と最も高く、次いで60歳代が25.0%だった。
- ◆ 地区別では、『対策している』は23区部が多摩地区より4.2ポイント高かった。

家庭での浸水への対策について

ここでは、皆さまのお宅での浸水対策について伺います。

下水道局では、毎年6月を「浸水対策強化月間」と定め、都民の皆さまに浸水への備えをお願いしています。

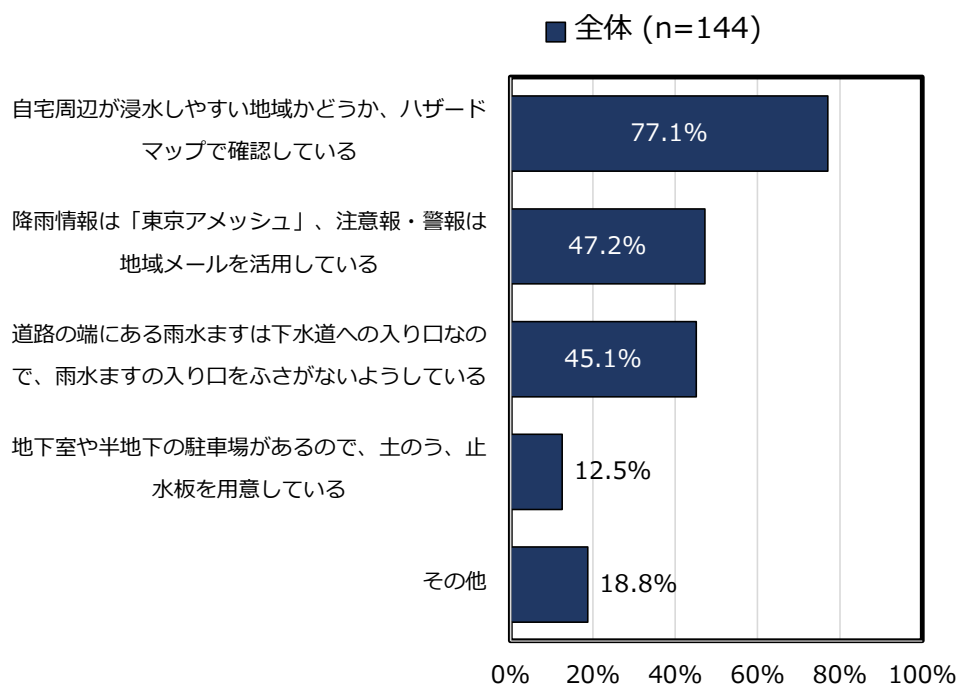
Q4 あなたのお宅では浸水対策を何かしていますか。(単一回答)



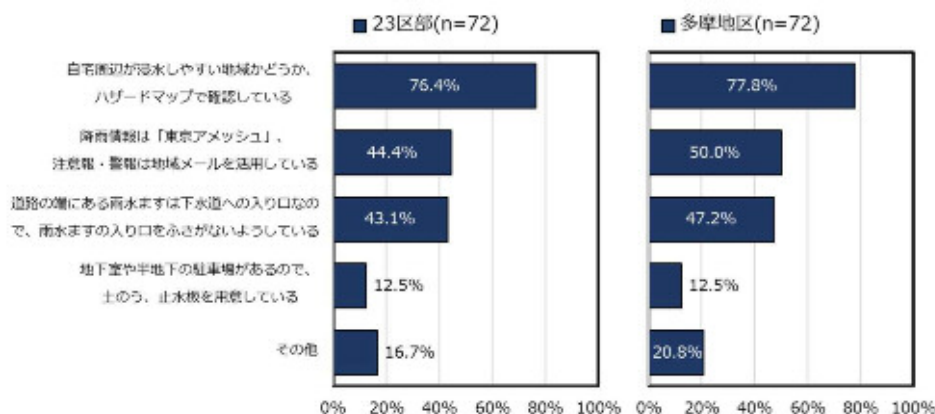
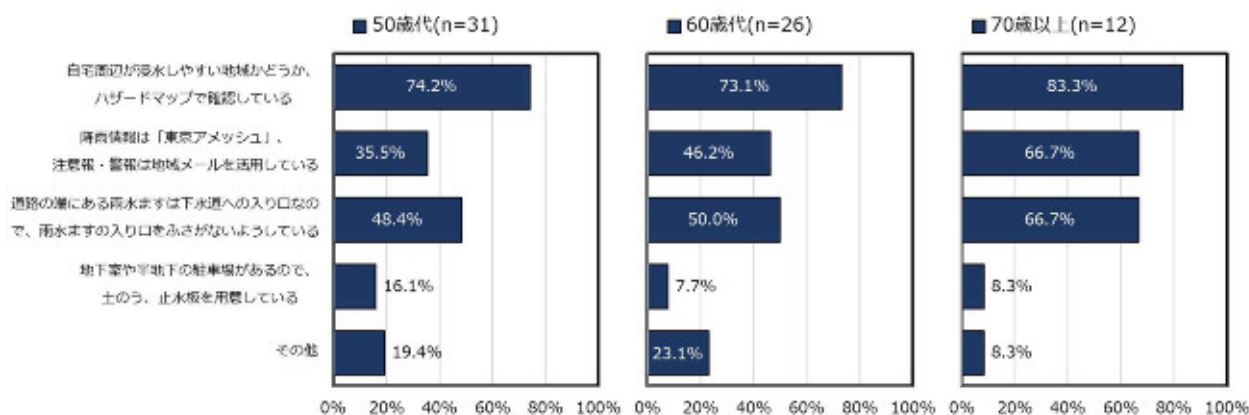
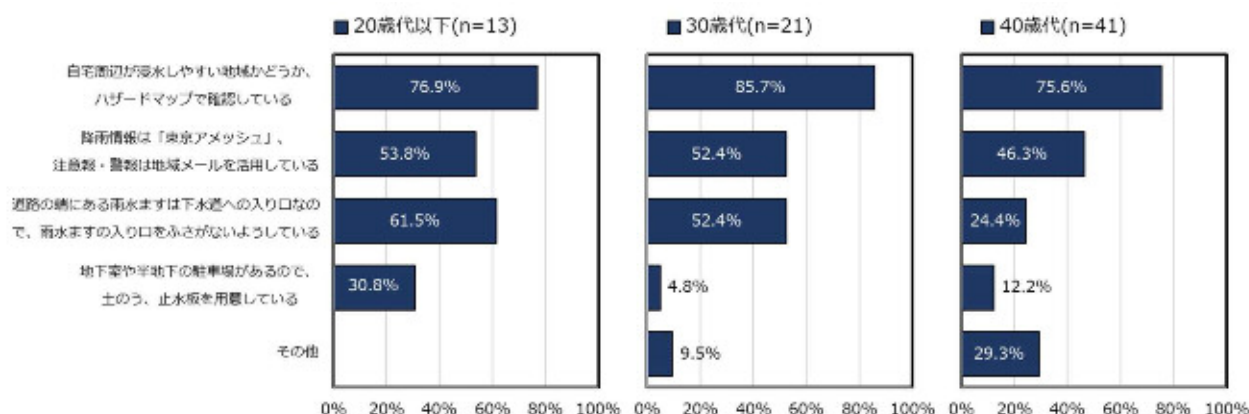
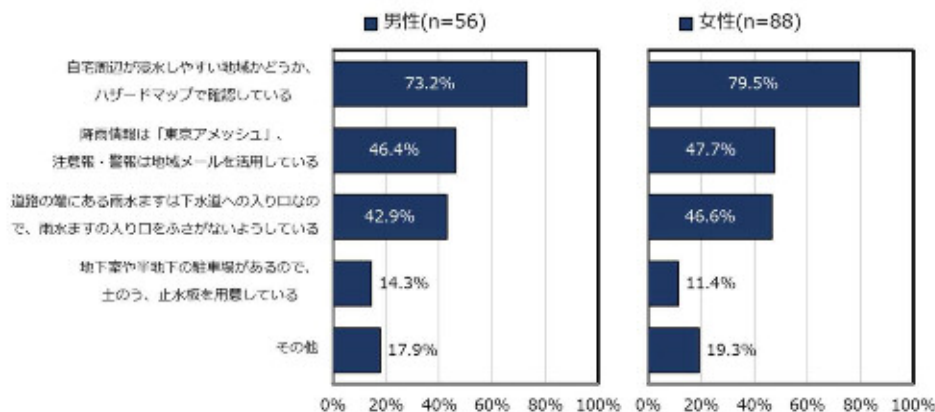
(2) 行っている浸水対策

- ◆ 家庭での浸水対策を行っている回答者（144 人）の対策では、「自宅周辺が浸水しやすい地域かどうか、ハザードマップで確認をしている」が 77.1%と最も高かった。
- ◆ 男女別で回答の傾向に違いはなかった。
- ◆ 年代別では、40 歳代を除くすべての年代で「雨水ますの入り口をふさがない」と約 5 割が回答しているが、40 歳代では 24.4%と低く、「その他」が 29.3%と各年代で最も高くなっている。
- ◆ 地区別では傾向に大きな違いはなかった。

Q4-1 Q4で「対策している」を選択された方に伺います。具体的に行っている対策について、以下の選択肢から、該当するものをいくつでもお選びください。（複数回答）



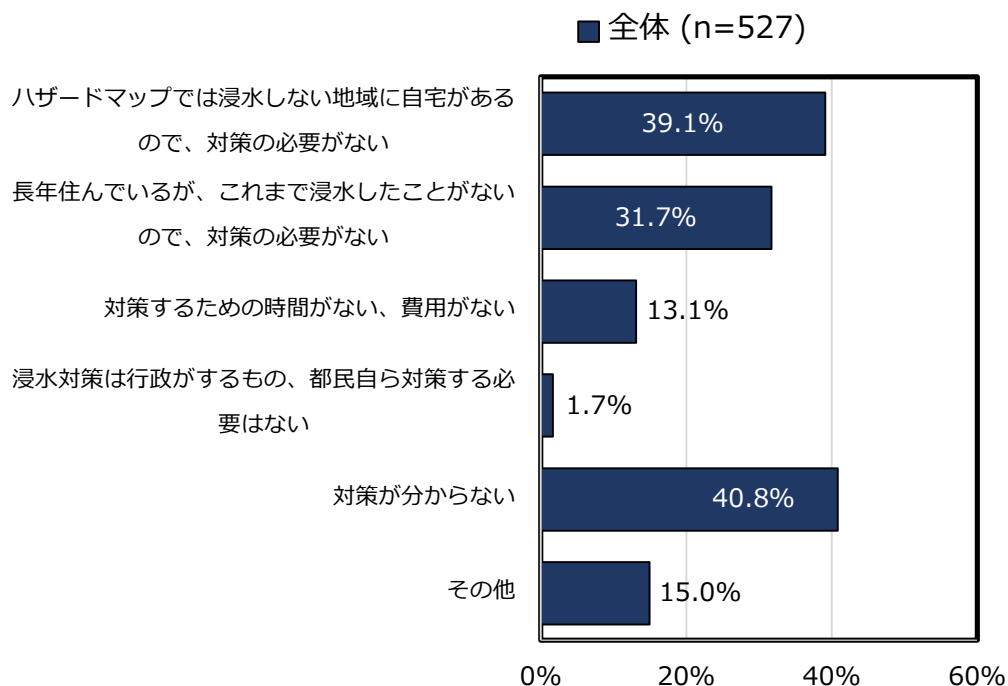
「その他」(27 件)の自由記述の一部	
排水口などの掃除 (6 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅近くにある下水道口周辺をきれいに掃除している。(50 歳代男性、多摩地域) ・ベランダの雨どいや身近な水の流れる箇所を塞がぬよう掃除している (40 歳代女性、多摩地域)
土のうや止水板を用意 (6 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・厚手ゴミ袋を準備し、土のうをステーションにすぐに取りに行けなくても対応できるようにしている。(40 歳代女性、23 区部) ・ベランダから部屋に浸水しないよう土のうをベランダにおいている (50 歳代女性、23 区部)
雨水浸透ますの設置、庭にしみ込ませる (6 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水浸透ますの設置。(40 歳代男性、多摩地域) ・雨水マス、雨水タンクを設置 (50 歳代男性、多摩地域)
自宅の基礎を高くした (4 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅建築時に少し盛土を行って、基礎の位置を高めた。(60 歳代男性、23 区部)



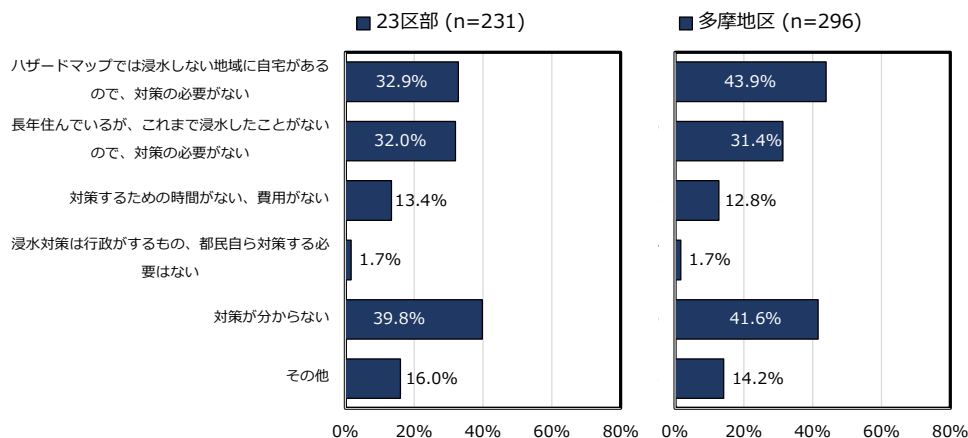
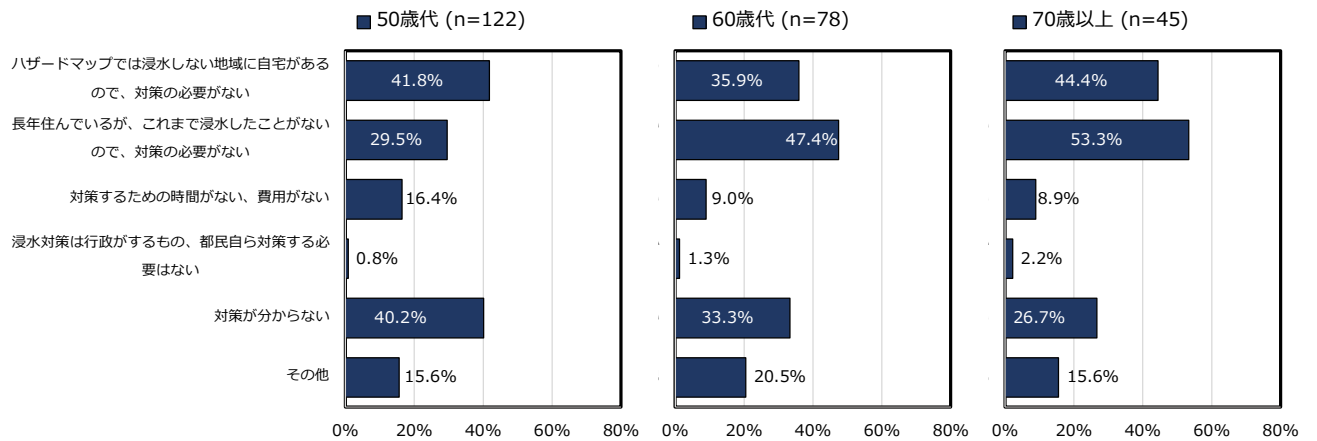
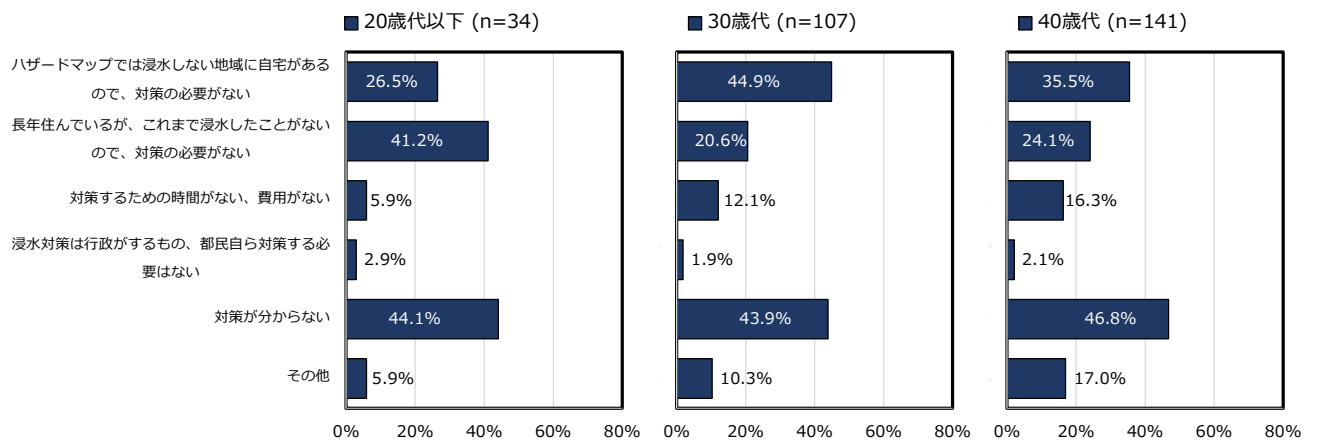
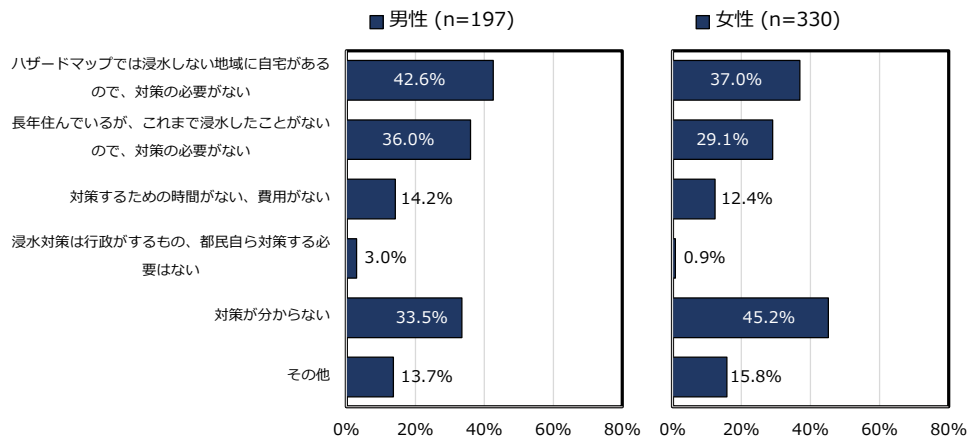
(3) 浸水対策を行わない理由

- ◆ 対策を行っていないとした回答者(527人)は「ハザードマップでは浸水しない地域に自宅があるので、対策の必要がない」、「長年住んでいるが、これまで浸水したことがないので、対策の必要がない」がそれぞれ39.1%、31.7%だった。
- ◆ 男女別では、女性で『対策が分からない』と回答した人が45.2%と高かった。

Q4-2 Q4で「対策していない」を選択された方に伺います。対策をしていない理由は何ですか。(複数回答)



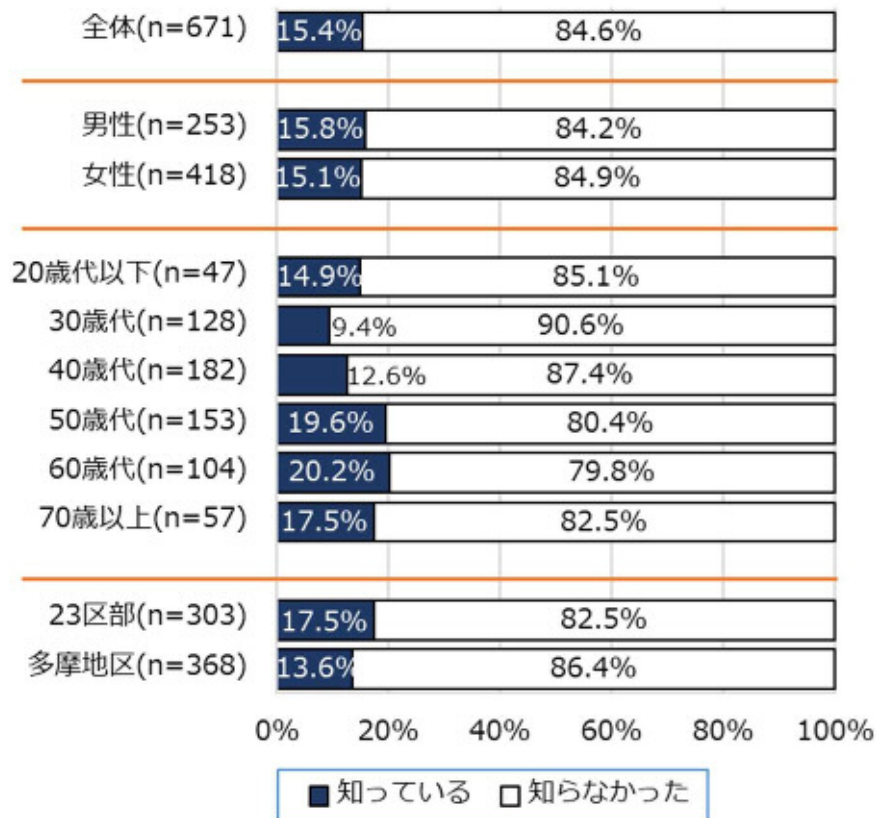
「その他」(79件)の自由記述の一部	
マンション/高層階に住んでいるので浸水しないため(35件)	・マンションの上層階に居住しているため。(50歳代男性、23区部)
集合住宅で管理会社に任せているため(19件)	・賃貸マンションの為、管理会社に任せている(60歳代女性、23区部)
高台に住んでいるため(7件)	・高台なので、たぶん大丈夫だと思っていました。(60歳代男性、多摩地域)
恐怖感・必要性を感じない(6件)	・対策の必要性があるか確認したことがない。(40歳代女性、多摩地域)
その他(12件)	・家の建て替えまで検討しないといけなくなる。(50歳代女性、23区部)



(4) 下水道局が紹介する浸水対策の認知度

- ◆ 下水道局が紹介している浸水対策を「知っていた」のは15.4%、「知らなかった」は84.6%だった。
- ◆ 男女別では大きな違いはなかった。
- ◆ 年代別では、対策を知っていたとの回答が50歳代と60歳代で比較的高い傾向だった。
- ◆ 地区別では、対策を知っていたとの回答は23区部が17.5%、多摩地区が13.6%で、23区部の方が3.9ポイント高かった。

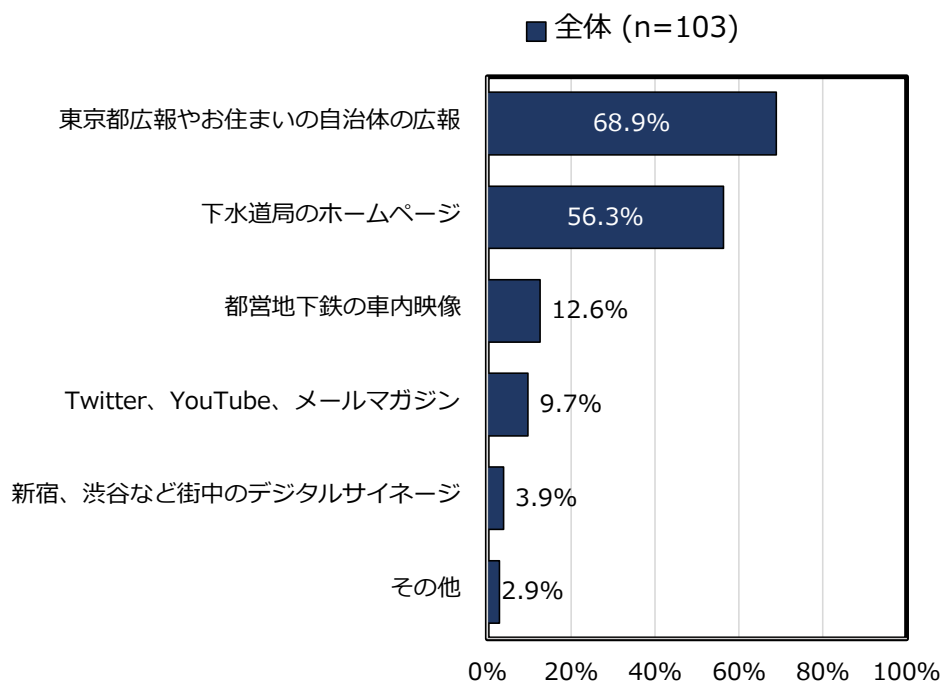
Q5 下水道局では、都民の皆さまでも簡単にできる浸水対策を紹介していますが、ご存知ですか。(単一回答)



(5) 浸水対策の認知経路

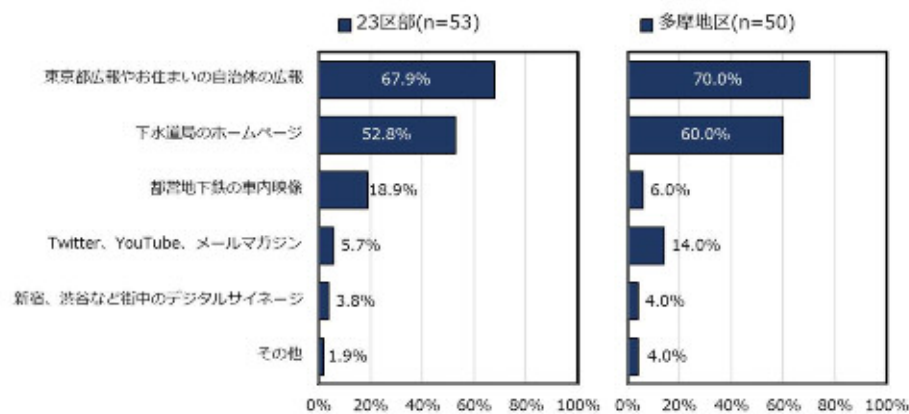
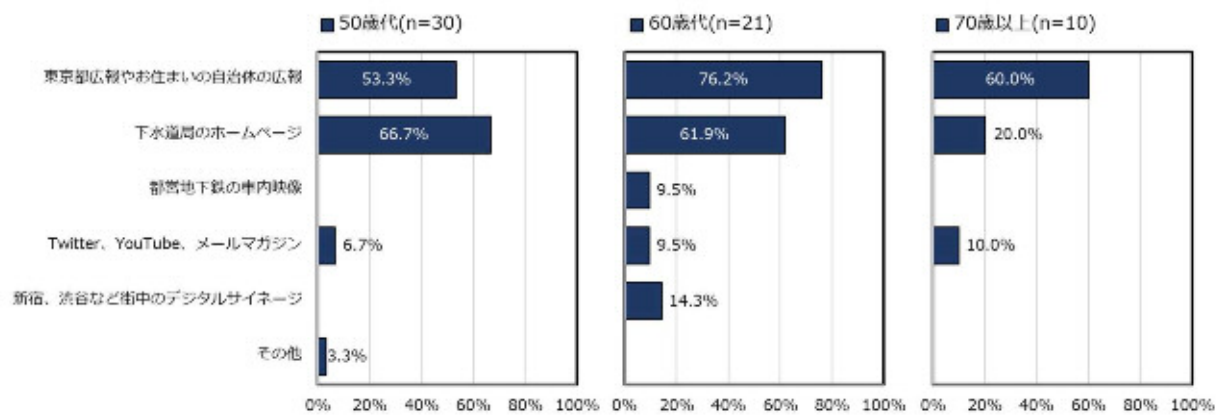
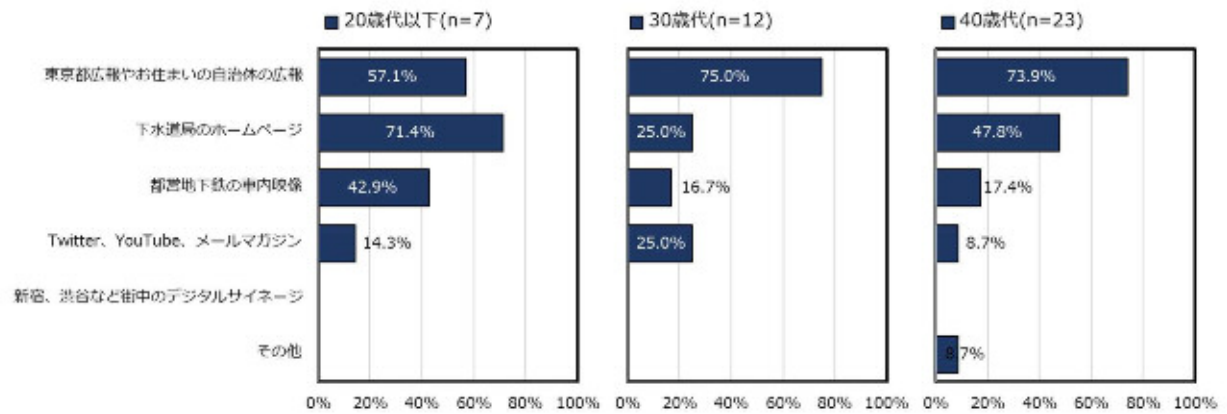
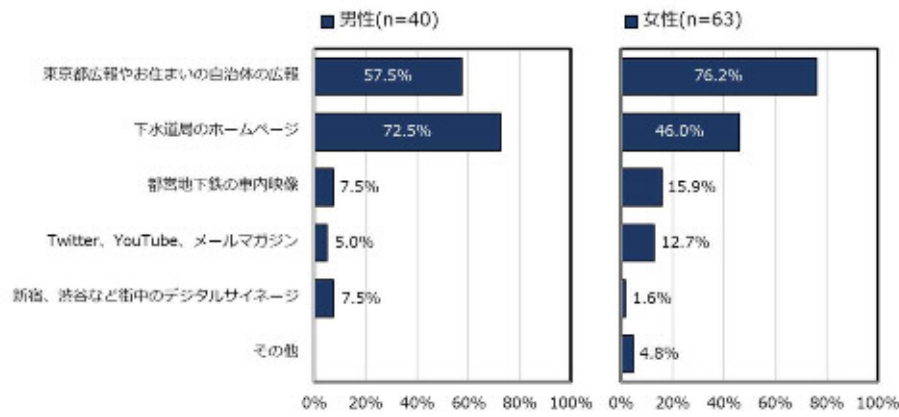
- ◆ 局が紹介する浸水対策を「知っている」と回答した 103 人の認知経路は、「東京都広報や自治体の広報」が 68.9%と最も高く、次いで「下水道局のホームページ」が 56.3%だった。
- ◆ 男女別では、「東京都広報や自治体の広報」は女性で 76.2%で最も高く、「下水道局のホームページ」は男性で 76.2%と最も高かった。
- ◆ 年代別では、「下水道局のホームページ」は 20 歳代以下で 71.4%と最も高いが、70 歳以上では 20.0%と大きな違いがあった。
- ◆ 地区別では、「東京都広報や自治体の広報」、「下水道局のホームページ」に次ぐ回答は 23 区では「地下鉄車内の映像」、多摩地区では「Twitter、YouTube、メールマガジン」だった。

Q5-1 Q5で「知っている」を選択された方にお尋ねします。下水道局が紹介する浸水対策をどこで知りましたか。(複数回答)



「その他」(3件)の自由記述

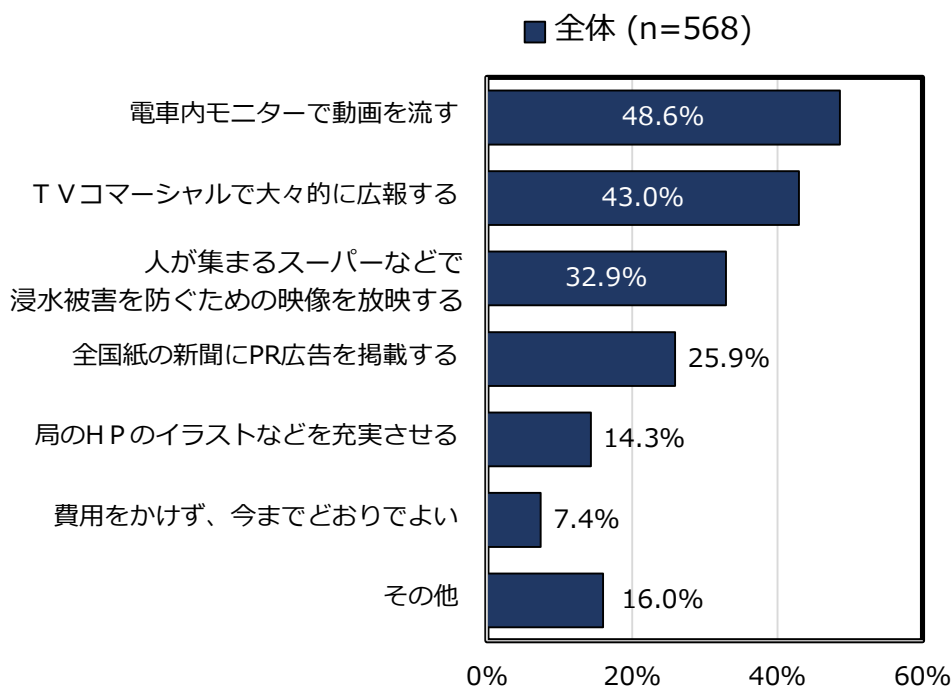
雨水浸透対策指針、ニュース東京の下水道、ワイドショーなど



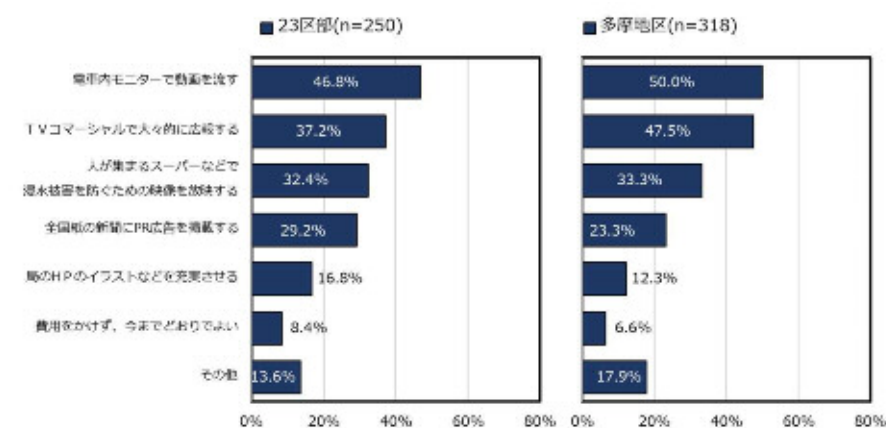
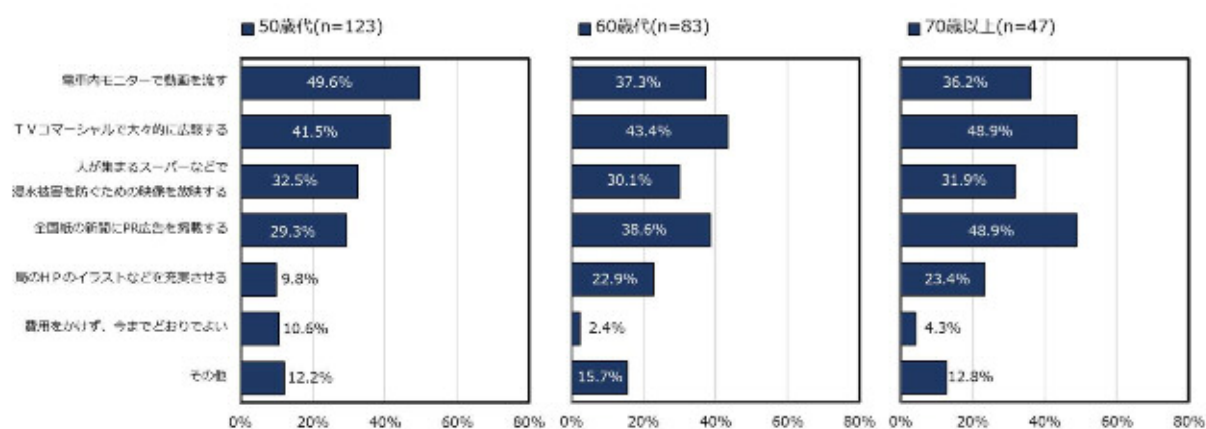
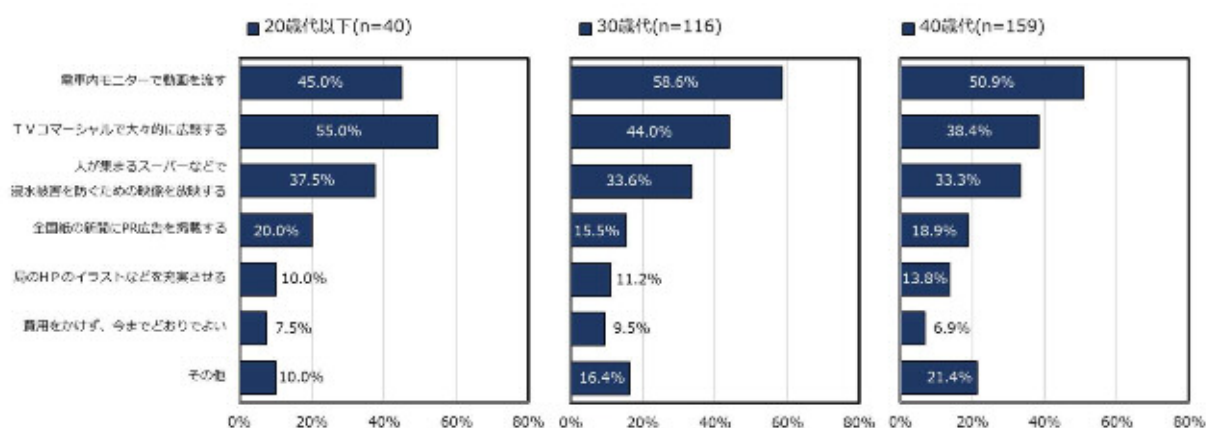
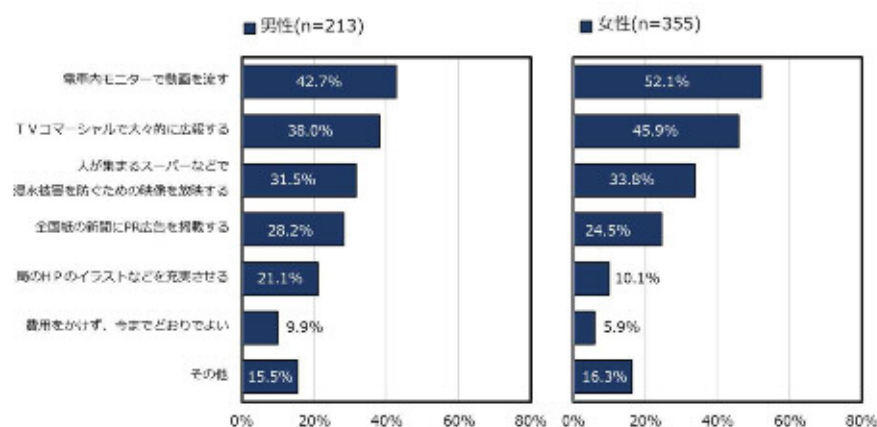
(6) 浸水対策のPR方法

- ◆ 局が紹介する浸水対策を「知らない」と回答した 568 人が適当と考える浸水対策の PR 方法は「電車内モニターで動画を流す」「TV コマーシャルで大々的に広報する」「人が集まるスーパーなどで浸水被害を防ぐための映像を放映する」が多かった。
- ◆ 年代別では、30 歳代、40 歳代、50 歳代では「電車内モニターで動画を流す」が最も高く、20 歳代以下、60 歳代、70 歳以上では「TV コマーシャルで大々的に広報する」が最も高かった。
- ◆ 地区別で傾向に違いはなかった。

Q5-2 Q5で「知らなかった」を選択された方にお尋ねします。都民の皆さまが自ら対策をしてもらうためのPRとして、どんな方法が適当と思いますか。(複数回答)



「その他」(91件)の自由記述の一部	
区報/市報/地方紙に掲載 (27件)	<ul style="list-style-type: none"> ・都や自治体の広報誌に載せる (40歳代女性、23区部) ・市区町村経由で、自治会や民生委員を通じた木目細かい伝達が効果的で、費用も少なく済む。(50歳代男性、多摩地区)
SNSの活用 (14件)	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS広告が1番目につきやすいと思う (30歳代女性、多摩地区)
YouTube等の動画活用 (10件)	<ul style="list-style-type: none"> ・YouTubeを利用して広報する。子供もよく見ているので。(40歳代女性、多摩地区)
学校で告知する (10件)	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校などでPR用のポスター作成を依頼する (40歳代男性、多摩地区) ・学校などで指導して頂ければ家族全体で意識できる (40歳代女性、23区部)
その他 (30件)	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい冊子(保存版)を作り、都民に配布。(60歳代女性、23区部) ・企業へ呼びかけ、社員へのアナウンスをしよう。(40歳代女性、多摩地区) ・タクシー広告 (40歳代女性、23区部)

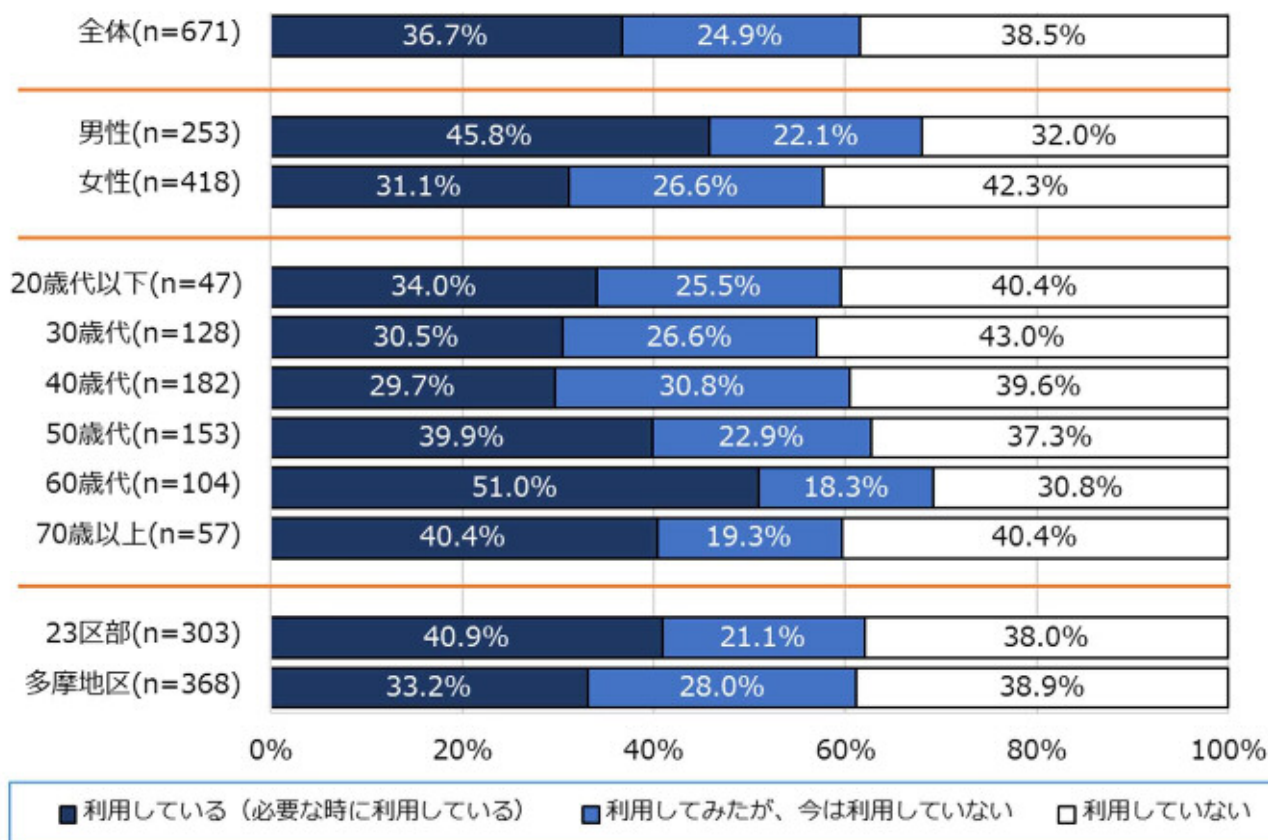


3 「東京アメッシュ」に関する設問

(1) 「東京アメッシュ」の利用

- ◆ 「東京アメッシュ」の利用経験者（利用している、利用してみたが今は利用していない）は 61.6%で、第1回アンケートの利用経験者割合（「東京アメッシュ」を知っている（利用している・利用したことがある）37.5%）よりも増加した。
- ◆ 男女別では、「利用している」と回答したのは男性が女性より 14.7 ポイント高かった。
- ◆ 年代別では、50 歳代から 70 歳以上の約 4 割から 5 割近くが「利用している」と回答した。
- ◆ 地区別では、「利用している」で 23 区部の方が多摩地区より 7.7 ポイント高かった。

Q6 あなたは、「東京アメッシュ」をご利用になりましたか。（単一回答）

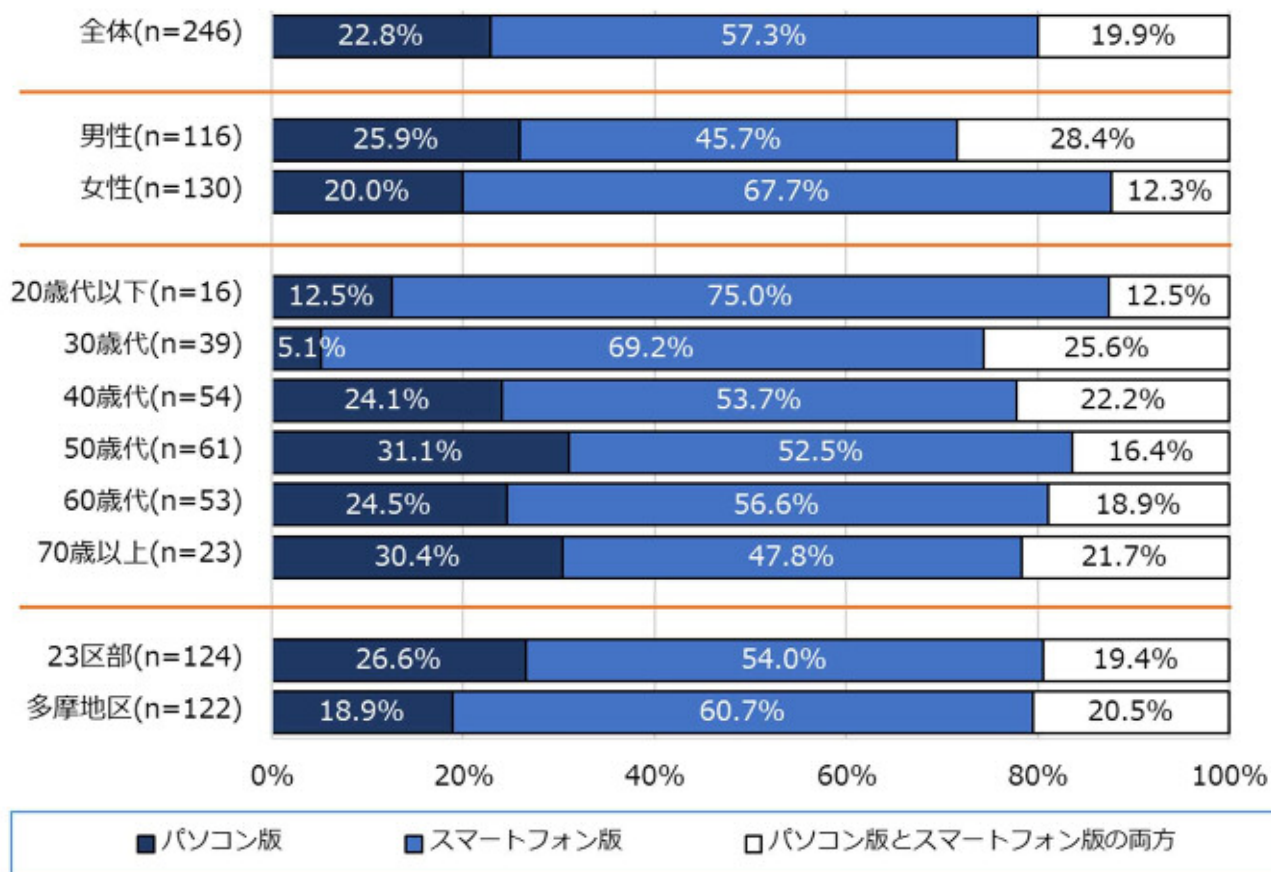


(2) 「東京アメッシュ」の利用タイプ

- ◆ 「利用している（必要な時に利用している）」と回答した 246 人は、スマートフォン版の利用が多かった。
- ◆ 男女別では、「スマートフォン版」の利用は男性が 45.7%、女性が 67.7%と、女性が男性より 22.0 ポイント高かった。
- ◆ 年代別では、「スマートフォン版」の利用は 20 歳代以下が 75.0%と最も高く、年代の若い層は「スマートフォン版」の利用が多かった。
- ◆ 地区別では、「スマートフォン版」の利用は多摩地区の方が 23 区部よりも 6.7 ポイント高かった。

Q7-1 Q6で、「利用している（必要な時に利用している）」を選択された方にお尋ねします。

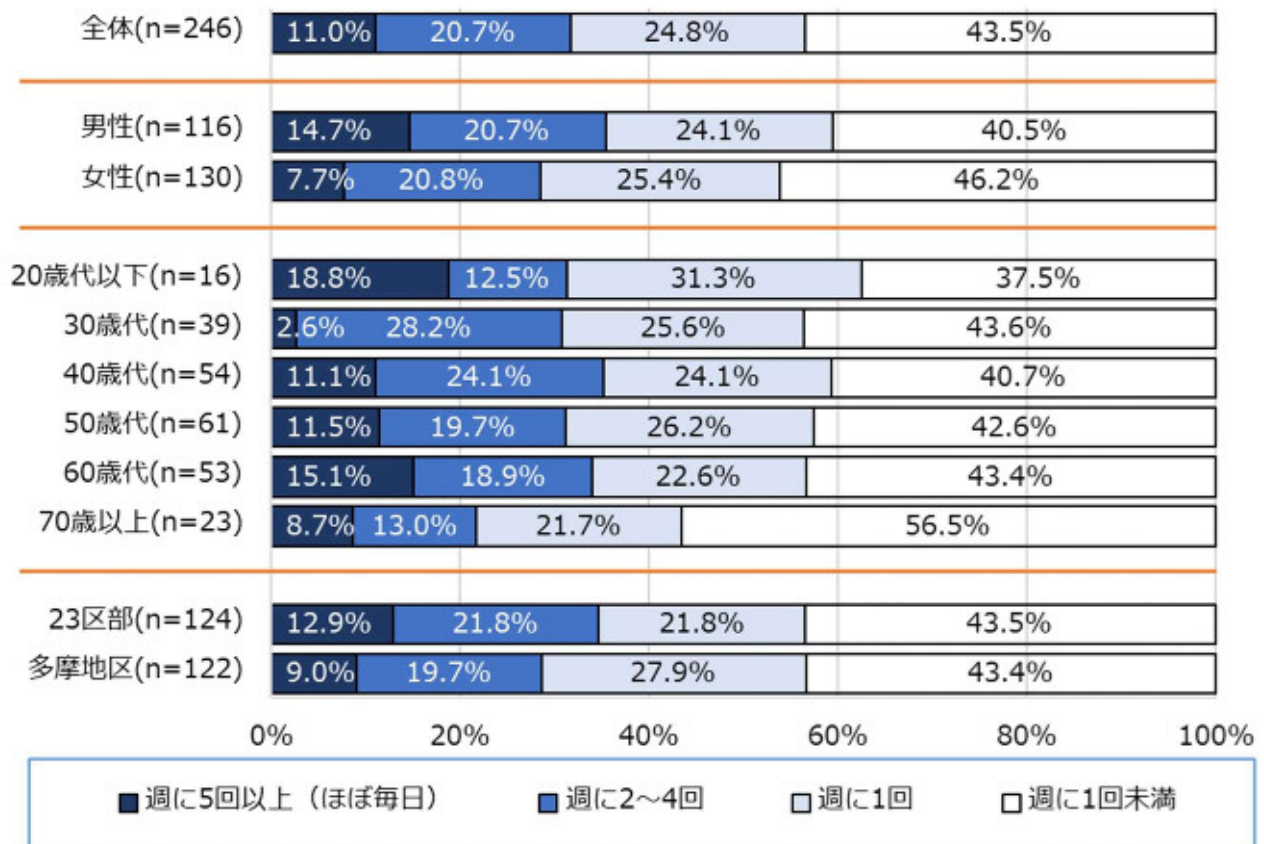
あなたは、「東京アメッシュ」について、パソコン版、又は、スマートフォン版のどちらをご利用になりましたか。以下の選択肢から、該当するものを一つだけお選びください。あなたは、「東京アメッシュ」をご利用になりましたか。（単一回答）



(3) 「東京アメッシュ」の利用頻度

- ◆ 「利用している（必要な時に利用している）」と回答した 246 人の利用頻度は「週に 1 回未満」が最も多かったが、約 3 割の方が週に複数回使用すると回答した。
- ◆ 男女別では、男性の方が女性よりも利用頻度が高かった。
- ◆ 地区別で傾向に大きな違いはなかった。
- ◆ 「利用している（必要な時に利用している）」と回答した 246 人の半数以上が「週に 1 回」か、それ以上と回答した。

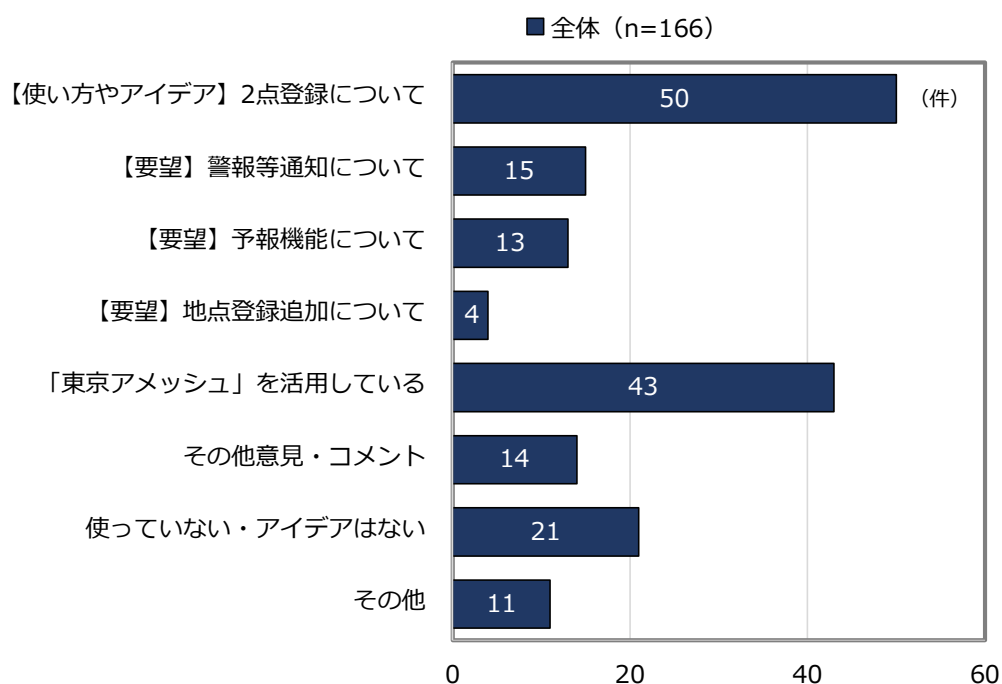
Q7-2 あなたは、「東京アメッシュ」をどのぐらいの頻度で、利用されていますか。（単一回答）



(4) 「東京アメッシュ」(スマートフォン版) の機能活用

- ◆ 東京アメッシュのGPS機能に関する設問に対して、自由回答は166件だった。
- ◆ スマートフォン版の機能を活用した使い方や使い方に関するアイデアは50件で、そのほか「東京アメッシュ」を活用している感想や、付加してほしい機能や要望が挙げられた。

Q7-3 「東京アメッシュ」スマートフォン版は、スマートフォンのGPS機能を活用して、地図上の現在地の表示や、任意に登録できる2地点までの降雨状況が一目で把握できるようになりました。この機能を活用したあなたの使い方や、使い方に関するアイデアをお聞かせください。(自由回答)



●使い方に関するアイデア等

2点登録について (50件)

- ・都内に暮らす同居していない家族に大雨の情報を伝えることができる。高齢の親世代にはスマホを活用することができないのでこちらで調べて連絡できるので、2地点まで登録できるのは便利。(60歳代男性、23区部)
- ・職場と自宅を登録しておき、出退勤時の雨対策に活用する。(40歳代男性、23区部)
- ・自分の住んでいる地域と、職場がある地域の2ヶ所を登録して降雨状況を把握しています。(30歳代女性、多摩地区)

●要望等

警報等通知について (15件)

- ・降雨状況で浸水の危険度も同時に表示する(60歳代男性、多摩地域)
- ・登録地点とハザードマップを連携させたアラート機能などがあれば、ハイリスクエリアのいる人にとって有用な危険周知ツールになるのではないかと。(30歳代男性、多摩地域)
- ・降雨状況とともに気象警報・注意報の情報、河川の情報も知らせてほしい。(40歳代男性、23区部)

予報機能について (13 件)

- ・ 移動先の天気やどのぐらい経ったら雨が止むかなど活用している。予報も表示できるようにした方が良い。(60 歳代男性、多摩地域)
- ・ 出かける先の降雨状況を確認するのに時々利用しています。短時間でも予測が見られるようになると良いかと思
います (50 歳代女性、多摩地域)

地点登録追加について (4 件)

- ・ 家族や知人など離れた場所にいる人の周りの降雨状況も確認したいので、登録できる地点を 10 か所程度に増や
せるとよい。(60 歳代男性、多摩地域)

●東京アメッシュ活用の回答

「東京アメッシュ」を活用している (43 件)

- ・ 仕事が外回りのためよく使っています。あとどのくらい降るのかアメッシュのおかげで予想がつかます。(40
歳代男性、23 区部)
- ・ 職場で窓がなく外の天気の様子がわからないとき、アメッシュで確認しています。(50 歳代女性、23 区部)
- ・ アクセスしたらすぐ情報が確認できるのがよく、余計な情報も入ってなくて、見やすいと思う。ただ、東京地方
だけしかわからないこと、また時間も限られてしまっている。(30 歳代男性、多摩地域)

●その他の回答

その他意見・コメント (14 件)

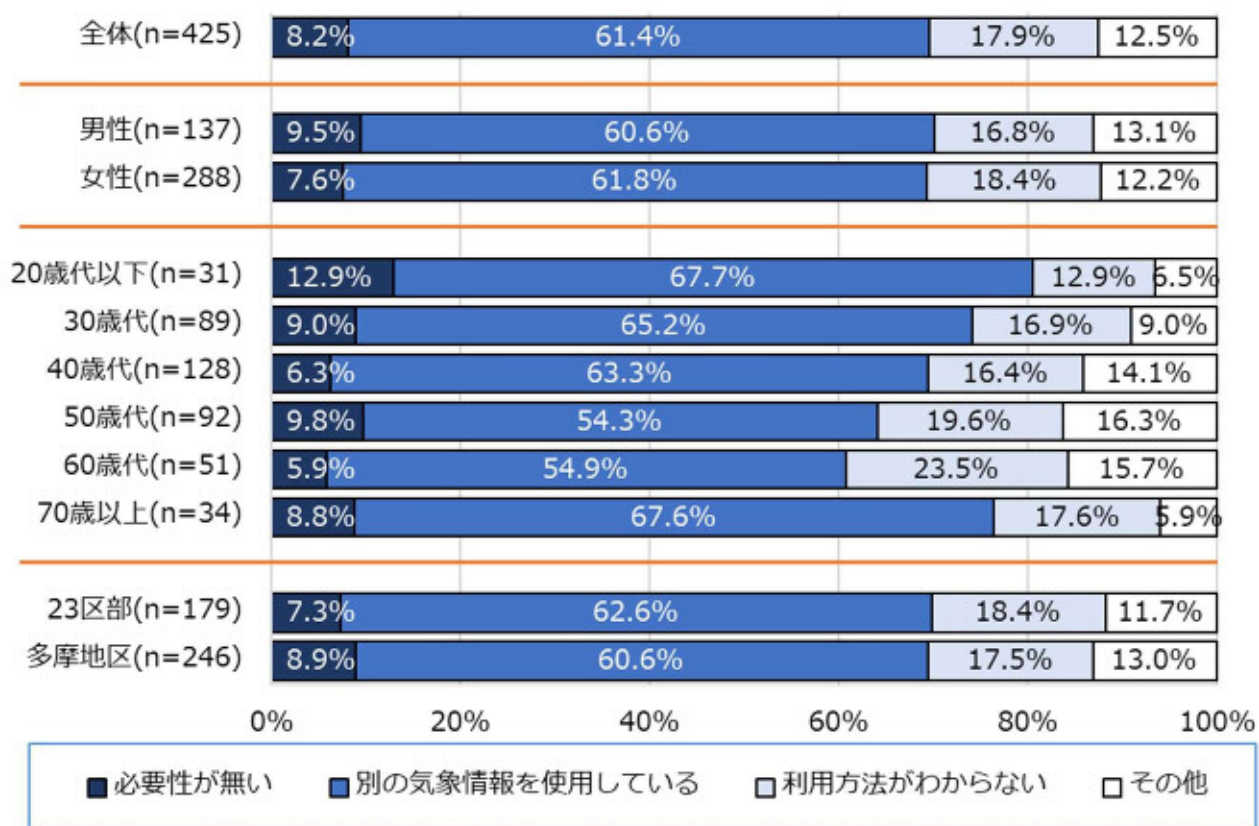
- ・ スマートフォンが活用しづらいです。理由は老眼が進んでくると画面の小さいスマートフォンは、見えにくいのが
弱点です。(50 歳代女性、23 区部)
- ・ 直近のアメッシュ情報(雨量が今後どうなるかを知りたいため)直近のアメッシュ情報を 5 分単位でなく、1 分
単位位に細かくしてもらいたい。(70 歳以上男性、多摩地区)

(5) 「東京アメッシュ」を利用しない理由

- ◆ 「今は利用していない」「利用していない」と回答した 425 人の利用しない理由は、「別の気象情報を使用している」が最も多く、「必要性が無い」との回答は 1 割を下回り「利用方法がわからない」との回答は約 2 割だった。
- ◆ 年代別では、「別の気象情報を使用している」は年齢が高くなると減少する傾向があるが 70 歳以上になると 20 歳代以下と同等の値だった。

Q8 Q6 で、「利用してみたが、今は利用してない」及び「利用していない」を選択した方にお尋ねとお知らせをします。

あなたは、なぜ、「東京アメッシュ」を利用しなくなった、又は、利用していないのですか。(単一回答)

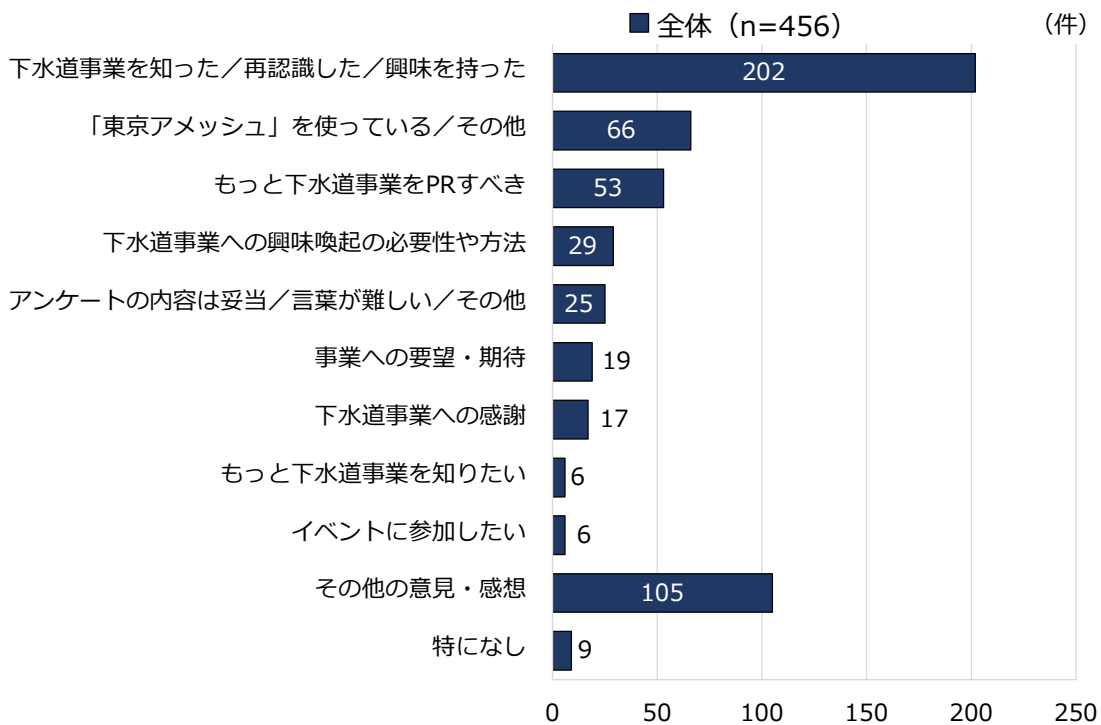


「その他」(53件)の自由記述の一部	
知らなかった/忘れていたため (15件)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のアンケートに回答し損ねたため。これからは活用させていただきます。(50歳代女性、多摩地区) ・今回初めて知ったから(40歳代女性、多摩地区)
他のアプリ/方法を利用しているため (9件)	<ul style="list-style-type: none"> ・他の天気アプリを使用しているため(30歳代女性、23区部)
その他 (29件)	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ豪雨になっていないので、豪雨の時利用してみる(50歳代男性、多摩地区) ・スマホの小さな画面を見るのが苦手(70歳以上男性、多摩地区)

4 局へのご意見・ご要望

- ◆ アンケート内容や下水道局への意見・要望は 456 件だった。
- ◆ アンケートやモニター活動で「下水道事業を知った」等の意見が最も多く、次いで「東京アメッシュ」を使っている」「もっと PR すべき」が多かった。

Q9 今回のアンケート内容（本アンケートに回答したことで、イメージが変わられた方はその理由など）、および東京都下水道局へのご意見・ご要望等がございましたら、お聞かせください。（自由回答）



【アンケート内容や下水道局へのご意見・ご要望】

下水道事業を知った／再認識した／興味を持った（202 件）

- ・ 様々な取組をされていることがモニター参加することで初めて知るようになりました。（40 歳代女性、多摩地区）
- ・ 大雨が降った時に、大量の雨水はどこへ行くのだろうか？と不思議に思ったことがあるので、今回のアンケートで、色々と対策をしているのだとわかり勉強になりました。（30 歳代女性、23 区部）
- ・ 東京都が浸水対策に真剣に取り組んでいることがよく分かった。遮集した雨水をどのように処理しているかについても関心を持った。（40 歳代男性、23 区部）

「東京アメッシュ」を使っている／その他（66件）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・東京アメッシュはとてもよく使っています。私は知人から聞きましたが、もっと告知すべきだと思います。例えば、検索したら、検索上位にくるなどした方がいいと思います。（30歳代男性、23区部） ・東京アメッシュは、大変便利なサービスで、サービス開始初期から利用しています。今後も更にバージョンアップを続けてほしい。（40歳代男性、23区部）
もっと下水道事業をPRすべき（53件）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な浸水対策がなされていることを知りました。都市機能を守る重要なお仕事ですので、もっと都民に知ってもらおうPRをした方がいいと思います。（40歳代男性、23区部） ・浸水など、実際に被害に遭ったことがないとなかなか対策法を調べてみようという気にならず、自分には関係がないように感じてしまいます。新聞や電車内広告など、誰にでも目につきやすいところでPRしてほしいです。（30歳代女性、多摩地区）
下水道事業への興味喚起の必要性や方法（29件）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水浸透や洪水対策で行っている公共施設が知られていないと思います。広く周知し、市民の災害意識を高めることが必要。（40歳代女性、多摩地区） ・できれば理解を深めるために下水道施設の見学会などを開催して欲しいです。（40歳代男性、23区部）
アンケートの内容は妥当／言葉が難しい／その他（25件）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・絵が多く面白く感じる。（40歳代男性、23区部） ・とても勉強になり、楽しかったです（40歳代女性、多摩地区） ・子供にもわかりやすく、簡潔に説明してくれるとこちらも教えてあげられると思います。（30歳代女性、多摩地区） ・「枝線」「暫定貯留管」「増補管」など浸水対策の取組を表す用語について、もっとわかりやすい言葉で表現したほうが良いと思いました。（20歳代以下女性、23区部）
事業への要望・期待（19件）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活排水などをそのまま河川や海に流さないように処理施設を増強してください。お願いします。（60歳代男性、23区部） ・下水道事業でよく道路工事をしていることは認識しておりましたが、自分が思っている以上に、今後の降水に対する対策をいろいろと講じてくださっていることが良かったのが良かったです。年々ゲリラ豪雨やなど、予想しにくい災害になりかねない天候が増えておりますので、ぜひできるだけ迅速に対策を進めていってほしいと思います。（30歳代女性、多摩地区）
下水道事業への感謝（17件）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の下水道維持管理は大変な苦勞が有ると思います。感謝しています。浸水対策に限らず関心を持ち少しでも皆様の苦勞が少なくなるよう心がけます。（70歳以上女性、23区部） ・色々な対策をして私達の暮らしを支えてくださっていることにますます感謝の気持ちが強くなりました。（30歳代女性、多摩地区）

もっと下水道事業を知りたい (6 件)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・知らないことが多くびっくりした。もっと学びたい。(70 歳以上女性、多摩地区) ・知らない事も多いのでもっと調べないと思いました(40 歳代男性、23 区部)
イベントに参加したい (6 件)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・長年、ビル管理をしていたので、下水道管理には興味があります。下水道見学はいつでも可能なのですか、教えて下さい。(70 歳以上男性、多摩地区) ・下水道施設の理解を深めるため、見学会など実施検討して欲しい。(50 歳代女性、多摩地区)
その他の意見・感想 (105 件)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨は明けたが、台風が近づいているので対策を考えようと感じた。(20 歳代以下女性、23 区部) ・停電対策はしていたのですが、大雨への対策を考えていなかったなので、何ができるか調べて実践しようと思いました。(30 歳代女性、多摩地区) ・多摩川が近くにあるため豪雨の際気にしなくてはと感じました。(40 歳代女性、多摩地区) ・浸水対策は、重要と分かっていたが、浸水エリアに自宅が入っていないので、関心が薄い。(50 歳代男性、23 区部)